

小諸新校再編実施計画懇話会を振り返って

令和2年(2020年)12月17日～令和8年(2026年)1月20日

小諸義塾高校校歌

作詞・作曲 横内日菜子

一 浅間を望む 生命のきらめき

白い五線に夢紡ぐ

古城に咲くはぬくもりの花

胸に描くは八重咲の未来

歴史を抱き 今日を歌え

小諸義塾 我が導

二 千曲にそよぐ 若葉のしらべよ

光る稜線 夢つなぐ

空に架けるは探究の橋

心耕し己を見つめ

歴史を抱き 明日を歌え

小諸義塾 我が導

三 脈打つ大地 生命の輝き

高原駆けぬけ 夢織りなす

あおきみそらに心をはなて

志高く 道を拓いて

歴史を抱き 未来歌え

小諸義塾 我が導



長野県小諸義塾高等学校
KOMOROGIJUKU HIGHSCHOOL



学び応援キャラクター「信州なび助」

©長野県教育委員会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

(目的)

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」という。)を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

(会議事項)

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- (1) 学校像、教育方針等に関すること
- (2) 校地・施設・設備等に関すること
- (3) 管理運営等に関すること
- (4) 教育内容等に関すること
- (5) その他、県教育委員会が必要と認める事項に関すること

(構成員)

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者(校長、教職員等)、地域の代表(自治体関係者、産業界の代表等)、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

(開催期間)

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

小諸新校再編実施計画懇話会 歴代構成員

NO	区分	氏名	所属等	任期
1	自治体	◆ 田中 尚公	小諸市 副市長	R2.12.17~R8.1.20
2		◇ 小林 秀夫	小諸市教育委員会 教育長	R2.12.17~R3.9.17
3		◇ 山下千鶴子	小諸市教育委員会 教育長	R3.11.2~R8.1.20
4		◇ 市川 美香	北佐久郡町村教育委員会連絡協議会 御代田町教育委員	R2.12.17~R5.2.24
5		宮本 隆	北佐久郡町村教育委員会連絡協議会 会長	R5.5.30~R6.3.26
6			北佐久郡町村教育委員会連絡協議会 代表	R6.7.23~R8.1.20
7	産業界	◇ 塩川 秀忠	小諸商工会議所 副会頭	R2.12.17~R4.8.18
8			小諸商工会議所 会頭	R4.11.21~R8.1.20
9		柴崎 晋輔	小諸青年会議所 理事長	R2.12.17~R3.3.25
10		小林 秀気	小諸青年会議所 理事長	R3.4.27~R4.3.25
11		宮崎 翔平	小諸青年会議所 理事長	R4.5.16~R5.2.24
12		新津伸太郎	小諸青年会議所 理事長	R5.5.30~R6.3.26
13		鷹野 裕一	小諸青年会議所 理事長	R6.7.23~R8.1.20
14		清水 信	さくさく農園代表	R2.12.17~R4.3.25 R5.9.4~R8.1.20
15	学識経験者	西村 廣一	元小諸高校・小諸商業高校 校長	R2.12.17~R8.1.20
16	地域	甘利 庸子	のぞみグループ代表取締役社長	R2.12.17~R8.1.20
17		山下千鶴子	小諸市社会教育指導員	R2.12.17~R3.9.17
18		吉沢 久	佐久地域振興局 局長	R2.12.17~R3.3.25
19		高橋 功	佐久地域振興局 局長	R3.4.27~R5.2.24
20		原 啓明	佐久地域振興局 局長	R5.5.30~R7.1.31
21		滝沢 裕之	佐久地域振興局 局長	R7.4.24~R8.1.20
22	同窓会	◎ 高見澤敏光	小諸商業高等学校同窓会 会長	R2.12.17~R5.5.30
23			小諸商業高等学校同窓会 特別顧問	R5.9.4~R8.1.20
24		鷹野 昭裕	小諸高等学校同窓会 会長	R2.12.17~R6.7.23
25		東城 芳春	小諸高等学校同窓会 会長	R7.1.31~R8.1.20
26	P T A	土屋 壮亮	小諸市 P T A 連合会 会長	R2.12.17~R3.3.25
27		前嶋 信義	小諸市 P T A 連合会 会長	R3.4.27~R4.3.25
28		清水 信	小諸市 P T A 連合会 会長	R4.5.16~R5.5.30
29		西田 祐恒	小諸市 P T A 連合会 会長	R5.9.4~R6.3.26
30		塩川 侑佳	小諸市 P T A 連合会 会長	R6.7.23~R7.1.31
31		嶋田 知英	小諸市 P T A 連合会 会長	R7.4.24~R8.1.20
32		北澤 隆司	小諸商業高等学校 P T A 会長	R2.12.17~R3.5.24
33		田島 幸子	小諸商業高等学校 P T A 会長	R3.7.20~R4.5.16
34		紙尾めぐみ	小諸商業高等学校 P T A 会長	R4.8.18~R5.2.24
35		臼田 明美	小諸商業高等学校 P T A 会長	R5.5.30~R6.3.26
36		上原 治代	小諸商業高等学校 P T A 会長	R6.7.23~R7.1.31
37		塩川久美子	小諸商業高等学校 P T A 会長	R7.4.24~R8.1.20
38		土屋 竹志	小諸高等学校 P T A 会長	R2.12.17~R3.5.24
39		土屋 邦子	小諸高等学校 P T A 会長	R3.7.20~R4.5.16
40		小林 紀子	小諸高等学校 P T A 会長	R4.8.18~R5.5.30
41		伊藤 美保	小諸高等学校 P T A 会長	R5.9.4~R6.3.26
42		黒田 説榮	小諸高等学校 P T A 会長	R6.7.23~R7.4.24
43		飯嶋さやか	小諸高等学校 P T A 会長	R7.6.16~R8.1.20

NO	区分	氏名	所属等	任期
44	学校関係者	福澤みゆき	小諸市小学校長会会長（千曲小学校長）	R2.12.17~R3.3.25
45		丸山 穰	小諸市小学校長会会長（野岸小学校長）	R3.4.27~R4.3.25
46		塚田 直道	小諸市小学校長会会長（美南力丘小学校）	R4.5.16~R5.2.24
47		深沼 浩	小諸市小学校長会会長（千曲小学校長）	R5.5.30~R6.3.26
48		渡辺 玲子	小諸市小学校長会会長（水明小学校長）	R6.7.23~R7.1.31
49		甘利 哲夫	小諸市小学校長会副会長（小諸東小学校長）	R7.4.24~R8.1.20
50		鹿取 俊彦	小諸市中学校長会会長（芦原中学校長）	R2.12.17~R5.2.24
51		相原 修	小諸市中学校長会会長（芦原中学校長）	R5.5.30~R7.1.31
52		栗津原弘文	小諸市中学校長会会長（小諸東中学校長）	R7.4.24~R8.1.20
53		◇ 岩本 秀幸	小諸商業高等学校 校長	R2.12.17~R4.3.24
54		坂口 健之	小諸商業高等学校 校長	R4.5.16~R8.1.20
55		原 周一郎	小諸商業高等学校 教諭	R2.12.17~R6.3.26
56		大槻 高範	小諸商業高等学校 教諭	R6.7.23~R8.1.20
57		◇ 寺島 克彦	小諸高等学校 校長	R2.12.17~R3.3.25
58		◇ 井村 敏明	小諸高等学校 校長	R3.4.27~R6.3.26
59		柳澤 弘蔵	小諸高等学校 校長	R6.7.23~R8.1.20
60		金子 房夫	小諸高等学校 教諭	R2.12.17~R3.3.25
61		木住野修平	小諸高等学校 教諭	R3.4.27~R6.3.26
62		新井 雅人	小諸高等学校 教諭	R6.7.23~R8.1.20
63		生徒	小口 貴子	小諸商業高等学校 生徒会長
64	岩下 愛美		小諸商業高等学校 生徒会長	R3.11.2~R4.11.21
65	伊藤 亜恋		小諸商業高等学校 生徒会長	R5.2.24~R5.9.4
66	伊藤 樹里		小諸商業高等学校 生徒会長	R5.11.29~R6.7.23
67	栗原 勝海		小諸商業高等学校 生徒会長	R6.1.31~R8.1.20
68	佐藤 大輝		小諸商業高等学校 生徒会副会長	R2.12.17~R3.9.14
69	小林 太		小諸商業高等学校 生徒会副会長	R3.11.2~R4.11.21
70	坂井 洸太		小諸商業高等学校 生徒会副会長	R5.2.24~R5.9.4
71	水澤 明夢		小諸商業高等学校 生徒会副会長	R5.11.29~R6.7.23
72	武井 瑚羽		小諸商業高等学校 生徒会副会長	R7.1.31~R8.1.20
73	矢澤 健吾		小諸商業高等学校 学年代表	R7.1.31~R8.1.20
74	小林あやの		小諸高等学校 生徒会長	R2.12.17~R4.11.21
75	名取 朋哉		小諸高等学校 生徒会長	R5.2.24~R5.9.4
76	柳澤 蓮		小諸高等学校 生徒会長	R7.1.31
77	竹内 太夢		小諸高等学校 生徒会長	R7.4.24~R8.1.20
78	柳澤 海里		小諸高等学校 生徒会副会長	R2.12.17~R3.9.14
79	根岸 悠希		小諸高等学校 生徒会副会長	R3.11.2~R4.11.21
80	糸井 柚菜		小諸高等学校 生徒会副会長	R5.2.24~R5.9.4
81	村瀬 光海		小諸高等学校 生徒会副会長	R5.11.29~R6.7.23
82	關 陽芙美		小諸高等学校 生徒会副会長	R7.1.31~R8.1.20
83	大池 花佳		小諸高等学校 生徒会副会長	R7.1.31~R8.1.20

◎：懇話会座長(校地検討部会構成員兼任)

(敬称略)

◇：校地検討部会構成員（◆：部会長）

第 1 回 小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和2年(2020年)12月17日 18時00分～19時30分		
場所	小諸市市民交流センター 会議室1・2・3		
出席 (敬称略)	田中 尚公, 小林 秀夫, 市川 美香, 塩川 秀忠, 柴崎 晋輔, 清水 信, 甘利 庸子, 吉沢 久 高見澤 敏光, 鷹野 昭裕, 土屋 壮亮, 土屋 竹志, 福澤 みゆき, 鹿取 俊彦, 岩本 秀幸, 原 周一郎, 寺島 克彦, 金子 房夫, 小口 貴子, 佐藤 大輝, 小林 あやの, 柳澤 海里 (以上22名)		
欠席 (敬称略)	西村 廣一, 山下 千鶴子, 北澤 隆司 (以上3名)	傍聴者	5名
事務局	小諸商業高校	藤澤 教頭(事務局長), 原 教諭, 中村 教諭, 松澤 教諭, 植原 教諭	
	小諸高校	倉下 教頭(副事務局長), 金子 教諭, 坂口 教諭, 井出 教諭, 甲田 教諭	
	県教育委員会	駒瀬 高校再編推進室長, 上原 主幹指導主事, 高野 担当係長, 上原(一) 主任指導主事	
当日資料	次第, 構成員名簿, 席図, 開催要綱, 説明資料, 小諸商業高校と小諸高校の3つの方針, グランドデザイン		
会議事項			
<p>(1) 座長選出 ◎高見澤敏光 構成員を座長に選出</p> <p>(2) 「高校改革～夢に挑戦する学び～」(県教委より説明)</p> <p style="margin-left: 20px;">① 「実施方針について」</p> <p style="margin-left: 20px;">② 「再編・整備計画【一次】」</p> <p style="margin-left: 20px;">③ 小諸新校の学校像</p> <p>(3) 質疑応答及び意見交換</p>			
構成員から出された主な意見(要旨)			
【小諸新校の学校像】			
<ul style="list-style-type: none"> ・様々なことが学べ、自分になりたい人になれる(なりたい自分になれる)夢がかなう学校 ・若者や高校生が活躍する舞台が「小諸」となるような街づくりと連携した新たな高校づくりが必要 ・世界にはいろいろな仕事があり、いろいろな人がいる中で、自分自身の枠を作り、自分だけの枠組みにあてはめて小さくまとめず、大きく世界に飛び出せるような、スケールの大きい生徒を育ててもらいたい。 ・デュアル学習システムへの取り組みの成果が表れてきている学校もある。大人も子どもも双方で学びあわなければいけない時代。各学科での学びは、地域を支えていく若者の育成にとって必要。 ・高校生との連携・協働を実践して、私たちも高校生からいろいろ学ばせてもらいたい。 ・現在、多学科(商業科・普通科・音楽科)において学習されていることをもっと活用したらどうか。それらが小諸の地から発信できればよい。 ・フィールドワーク、グループワーク、コミュニケーション、これからの時代だからこそ必要になってくる。 ・小諸新校の教育ばかりでなく、これからの教育は、いかに「本物」に触れ、「本物」に学ぶかが重要。「スケールの大きい若者」を育てるためにも、そのきっかけがつかめる高校でなければならない。 			
その他			
【次回】			
日時: 令和3年(2021年)1月25日(月)18時～19時30分			
会場: 小諸市市民交流センター 会議室1・2・3			
内容: 大正大学 地域創生学部教授 浦崎 太郎氏による講演及び意見交換			

第 2 回 小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和3年(2021年)2月22日(月) 18時00分～19時30分
場所	小諸商業高等学校 大会議室
出席 (敬称略)	田中 尚公, 小林 秀夫, 市川 美香, 塩川 秀忠, 清水 信, 西村 廣一, 高見澤 敏光, 鷹野 昭裕, 北澤 隆司, 土屋 壮亮, 岩本 秀幸, 原 周一郎, 寺島 克彦, 金子 房夫, 福澤 みゆき, 鹿取 俊彦, 甘利 庸子, 山下 千鶴子, 小口 貴子, 佐藤 大輝, 小林 あやの, 柳澤 海里(22名)
傍聴者	3名
事務局	小諸商業高校: 藤澤教頭(事務局長), 原教諭, 松澤教諭, 中村教諭, 植原教諭 小諸高等学校: 倉下教頭(副事務局長), 金子教諭, 坂口教諭, 井出教諭, 甲田教諭 県教育委員会: 上原主幹指導主事, 高野担当係長, 柳沢敬主任指導主事
当日資料	○次第, 席図, 第1回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ, 校地検討会資料, 講演会資料,
会議事項	
1 第1回懇話会について(報告) 2 校地検討会議について(連絡) 【講演】「これからの高校教育のあり方」について ＜講師＞ 大正大学地域創生学部 教授 浦崎太郎氏 ①質疑応答 ②意見交換	
質疑応答及び意見交換(○構成員のご発言 ⇒浦崎氏のご回答)	
<p>【コンソーシアム】 ○本人、地域、学校が交わるというお話の中に、PTAとして家庭も交わることが大切と感じた。 ○今の小諸の方向性は間違っていないと感じた。地域と高校がどう連携するかに尽きる。</p> <p>【共学共創】 ○大事なのは、仲間として、地域として共感できる心。生徒のスイッチを入れることが大切だと感じた。 ⇒共学共創の前提は共感。PTAが一番身近で高校生との関係性をつくれるとても大切な組織と認識。</p> <p>【マイ・プロジェクト】 ○「自分事にしていく」ことが大事であることを実感した。「自分らしく」というからには「自分」を知っていなければならない。「自分を知る」ためにはどのようなことを心掛けたらよいか。 ⇒「自分事にする」とは共感すること。「共感」「親近感」「一体感」の先にマイ・テーマが育つ。幼い時から身近な人、地域と関わる機会をつくれるか、居場所をつくってあげられるかがマイ・プロジェクトの成否の分岐点。</p> <p>【総合的探究の時間】 ○“一体的で不可分な課題”とは、具体的にはどのようなイメージをしたらよいか。 ⇒“課題に恋する”状態。恋をすると「考えるな」といっても無理な話。そういう状態と解釈してほしい。 ○中学校でも「何を学ぶか」から「どのように学ぶか」に移ってきているが、現場では学習指導要領の内容をクリアしなくてはいけない現実もあり、バランスをとることが難しい現状である。</p> <p>【掛け算による価値創造】 ○自治体として地元の高校にどのような支援ができるかが課題。「偏差値教育」よりも「社会人としての基礎力の向上」の話に共感。高校生が地元に戻り、社会貢献、地域課題の解決という流れになれば素晴らしい。 ○一番の課題は、新校に向け地元をどう盛り上げるかということ。具体的な成功例を伺いたい。 ⇒1つめは岐阜県飛騨市。幼小中高、家庭、地域が一体となってコミュニティを育てている最中。飛騨市学園構想。2つめは宮城県気仙沼市。子どもが自分らしくあるために、町として学校としてどう応援していくか。現在、高校生のマイ・プロジェクトを市として支援する機運が高まっている。 ○子どもたちには深い学びを期待。現在の産業界のトップは保守的な昭和平成の教育を受けた人たちが多く。考え方を変えていくには今後どのように取り組んだらよいか伺いたい。 ⇒今までは狭い「組織の中で生きる」がスタンダード。今後は街に出て多様な人と交流していくことが大事。それを意図的に実行しているのがco-working space。業種を超え、異年齢同士が対話できる場を街中に沢山つくり、面白いことをやっていく。会社の外で行うことで、新しいビジネスが生まれる可能性もある。</p>	
次回 第3回小諸新校再編実施計画懇話会の予定	
小諸商業高校、小諸高校 各校生徒による「学校紹介及び期待する新校像」のプレゼン及び意見交換	

第3回 小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和3年(2021年)3月25日(木) 18時00分～19時30分
場所	小諸高等学校 音楽ホール
出席 (敬称略)	田中 尚公, 小林 秀夫, 市川 美香, 塩川 秀忠, 柴崎 晋輔, 清水 信, 高見澤 敏光, 鷹野 昭裕, 北澤 隆司, 土屋 壮亮, 岩本 秀幸, 原 周一郎, 寺島 克彦, 金子 房夫, 福澤 みゆき, 鹿取 俊彦, 吉沢 久, 甘利 庸子, 山下 千鶴子, 小口 貴子, 佐藤 大輝, 小林 あやの, 柳澤 海里 (以上23名)
傍聴者	6名
事務局	小諸商業高校: 藤澤 教頭(事務局長), 原 教諭, 松澤 教諭, 中村 教諭, 植原 教諭 小諸高校: 倉下 教頭(副事務局長), 金子 教諭, 坂口 教諭, 井出 教諭, 甲田 教諭 県教育委員会: 上原 主幹指導主事, 高野 担当係長, 村澤 主査, 柳沢 主任指導主事
当日資料	○次第, 席図, 第2回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ, 講演会のまとめ ○生徒発表資料(小諸商業高校, 小諸高校)
会議事項	
(1) 第2回小諸新校再編実施計画懇話会まとめについて(報告) (2) 第1回校地検討部会について(報告) (3) 新校に期待する姿について ①生徒による発表 ②意見交換	
高校生による発表及び主な意見(要旨)	
【高校生による発表】(学校紹介及び新校に期待する学校の姿について)	
<小諸商業高校>【未来の学校】	
○小諸商業高等学校の良さ[商業科、検定の取得量、スマイル小商店街、デュアルシステム] ※デュアルシステム=産業現場での長期の就業体験を教育課程に位置づけ、産官学が連携して地域の産業人材の育成を図るシステム	
○全校アンケート結果、現状 [△評価点]商業の学び、検定が多い、イベントが多い、駅が近い [▼改善点]校則の徹底、身だしなみ、普通科の授業が少ない、グラウンドの整備	
○将来の学校像 [両校の良さが詰まった、学校に行きたいと思える学校] ～～生徒が、明るく輝き、交流し、可能性を広げられる、設備の整った学校～～	
<小諸高校>【新校について 私たちが考える3つのこと】	
○校舎について[現校舎=駅から遠い、段差が多い、音楽棟設備は充実しているが、更衣室・練習室等改善] [新校舎=バリアフリー化、全学科が同じ校舎で生活、フリースペースで自由に交流可能]	
○4科の交流について[普通科・音楽科・商業科・会計システム科]生徒自ら考える4科の交流、合同文化祭	
○新科について[多言語学科、融合企画]それぞれの科が活躍⇒協力して企画 スローガン=“多様性”	
【主な意見】	
○両校の発表に感動した。インプットする学びに加えて、アウトプットする学びがとても大切だと思った。	
○素晴らしい発表だった。小諸商業のデュアルシステムは新校のひとつの特長になると思った。	
○私の会社では、小諸商業の生徒が一定期間デュアルシステムにより実際に仕事をしてもらっている。地域と一緒に考えていくことは新校が目指す姿のひとつ。小諸市の内外に声をかけて頂けば、喜んで皆協力する。	
○制服を着る、身だしなみに気をつけることによって、見栄えや街中での生活がよくなると思う。	
○デュアルシステムなど、生徒が自ら取り組む姿勢は社会に繋がる大切なこと。「多言語学科」から感じたのは、コロナ禍で、高齢者に対し生徒さん方に逆に先生となって来てもらえたら有難いと思った。	
○[副市長]魅力ある環境を整備する立場として、通学に関する両校の生徒の意見を聞きたい。 <小諸>凄く遠く辛い(楽器あれば特に)。<小諸商業>第二グラウンド遠い。近くにしてほしいです。	
○多様性という言葉が出て嬉しい。統合によってスケールの大きい考え方ができる多様性のある学校ができると感じた。是非、近くに良い校舎の学校をつくってあげてほしい。小諸の街は小さいが、いろんな企業がある。積極的に企業を巻き込んで連携することで良い学校にしてほしい。	
○素晴らしいプレゼンを見て高校生を応援したくなった。多様性こそがバランスを保つためのキーワード。	
○小学校の地域連携=収穫体験や歴史等、地域の皆さんの協力で、学区の中で生活科や社会科の授業でも連携。	
○中学校の地域連携=地域を1年で知る、2年で学ぶ、3年で貢献。義務教育では可能性を見つける、高校では専門性に繋げ深めていく。小諸は産業・歴史・文化・商工業・観光がコンパクトにある。体験を通して小中高の繋がりの中で自己実現をはかっていく、今日はワクワクする新校になりそうな期待が持てた。	

第 4 回 小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和3年(2021年)4月27日(火) 18時00分～19時30分		
場所	長野県小諸市庁舎 3F 第1・第2会議室		
出席	懇話会構成員 21名		
欠席	懇話会構成員 4名	傍聴者	傍聴3名、報道1社
事務局	小諸商業高校	藤澤教頭(事務局長)、原教諭、中村教諭、浅沼教諭、中山教諭	
	小諸高校	細萱教頭(副事務局長)、木住野教諭、坂口教諭、井出教諭、甲田教諭	
	県教育委員会	上原主幹指導主事、柳沢主任指導主事、石井主事、丸山担当係長、村澤担当係長	
当日資料	第4回懇話会次第、構成員名簿、第3回懇話会まとめ、小諸新校学校像のイメージ、小諸商業高校学校視察報告資料、大正大学 浦崎太郎先生 講演(第2回懇話会)内容【概要版】		
会議事項			
1 報告	(1) 第3回懇話会まとめ	(2) 第1回校地検討部会報告	
2 会議	(1) 小諸商業高校の学校視察報告	(2) 意見交換(小諸新校の地域連携について)	
3 連絡事項	次回予定(令和3年5月24日)		
小諸商業高校の学校視察及び意見交換			
【小諸商業高校による学校視察報告】			
<広島県立福山商業高校、広島商業高校『ビジネス探究プログラム』>			
○テーマ: ワーク①=「生きるって何?」自由記述・・・(生徒の多くがほとんど書けない)			
ワーク②=『人生100年時代を確認しよう』(「Born」「Now」「End」)自分の人生の現在地を認識			
ワーク③=『ライフウェーブチャート』作成(良かったこと、嬉しかったこと、楽しかったこと)			
(悪かったこと、悲しかったこと、苦しかったこと)			
発表(隣席同士⇒クラス全体)=皆それぞれ違うことを認識			
ワーク④=『マインドマップ』作成(自分の周りにいる人、自分に影響を与えた人)			
『ライフウェーブチャート』と『マインドマップ』を比較(自分の人生で印象に残った出来事には、影響を与えた人物がいることの気づき)			
ワーク⑤=『マインドマップ』の言語化(自分の人生で印象に残った出来事、影響を与えた人を文章化)			
発表(隣席の仲間に説明⇒多くの人と話し読み)=自分との違いを認識、仲間の理解、自分を理解してもらう			
ワーク⑥=『生きるために必要なことを列挙』⇒自分と同じものを挙げた生徒の名前を記述			
ワーク⑦=「生きるって何?Ⅱ」150字/15分目標・・・(ほとんどの生徒が目標クリア)			
○生徒の気づき:生きていくために、人との関りの中で学びを深めることの大切さを認識⇒商業を学ぶことの意義へ発展			
○プログラムを実施する上での共通認識:「失敗してもいい」・「人と違っていい」・「ミスしても注意されない」			
⇒自分と違う考えを受け入れ、教師が「教えない」			
⇒「学ぶことの大切さ」「学びの楽しさ」気づきが生まれる⇒社会で役に立つ学習へ発展			
【意見交換】 (視察報告を受けての感想及び、地域と連携した学びについて)			
○私は学校で、実際に発表された授業を体験した。問題を掘り下げて深く考えさせられる内容で、いろんな力が身につく実感があつた。新しい学校では、一つの問題を深掘りしたり、自己分析したりできる授業が必要だと感じた。			
○ブレインストーミング等、以前は企業研修で行われていた内容を、これからは高校生が授業で体験する時代になったと感じる。授業形態自体が変わらなくてはいけない時代になったと痛感する。			
○生徒自身が考え、答えのない課題に対し探究的な発想で取り組んでいくということが非常に大事だと思う。小諸高校では、ジョブ・インタビューで生徒自ら会社とアポをとり聞き取り学習を行い、教員がサポートする取り組みをしている。			
○小諸商業では、生徒たちが小学生にパソコンを教えたり、スマイル小商店街を通じて子どもたちに販売実習をしてもらったり、様々な商業的な学びを体験してもらい取り組みを長年にわたり継続している。			
○音楽科では、地元の保育園幼稚園に出向き演奏を通じた交流を行っている。生徒には、自分の幼い頃を振り返る授業を通して、子どもたちの気持ちを考えながら行うコンサートで地域との繋がりをもっている。			
○小諸新校には、地元の産業界や街の方々も積極的に関わりたいという希望をもっている。先ほどのビジネス探究プログラムが他の授業でも展開していることを聞くと、企業がお金を払ってコンサルを呼んで実施している内容と同じで、高校でそのような学びがあるというのは、将来に大変期待が持てる。			
○子どもたちがやりたいことができる環境づくりが大事。3科でコンサートをプロデュースし、どこで、誰を対象に、どんなブースで、お店も出して、自由に発想し行動できる環境が一つの高校になることで実践できる期待がもてる。			
○東信唯一の商業、県下唯一の音楽、それをつなぐ普通科、小諸市としては、新校の新たな学びの構築に協力をしたい。			
○コンパクトシティ構想の中で、小中高校が連携して、新校を芯に高校生が回遊する新しい街づくりに繋がればいい。			
○地域の子どもたちをどう育てていくのかは、大人の責任として小中学生が魅力を感じる高校をつくらなくてはいけない。			
○生徒が学びに生き活きと向かう姿勢をどう確立していくか、ということをもさらに深めていけたらいいと感じる。			
○新しくできる高校が、どういう教育を実践していくのか、その中身を見ることができた気がする。			

第 5 回 小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和3年(2021年)5月24日(月) 18時00分～19時30分		
場所	長野県小諸市庁舎 3F 1・2会議室		
出席	懇話会構成員20名		
欠席	懇話会構成員5名	傍聴者	傍聴3名、報道2社
事務局	小諸商業高校 藤澤教頭(事務局長)、原教諭、中村教諭、浅沼教諭、中山教諭 小諸高校 細萱教頭(副事務局長)、木住野教諭、坂口教諭、井出教諭、甲田教諭 県教育委員会 上原主幹指導主事、高野担当係長、丸山担当係長、柳沢主任指導主事		
当日資料	第5回懇話会次第、構成員名簿、第4回懇話会まとめ、 「小諸新校とまちづくり」プレゼンテーション用資料 ①西村廣一 懇話会委員、②小泉俊博 小諸市長		

会議事項

- 1 報告 (1) 第4回懇話会まとめ (2) 第3回校地検討部会報告
- 2 会議 (1) 「小諸新校とまちづくり」プレゼン及び意見交換 連絡事項 次回予定(令和3年7月20日)

「小諸 新校とまちづくり」プレゼンテーション 及び意見交換

①【西村廣一様(懇話会委員:元小諸商業・小諸高校校長、現埼玉県狭山市教育委員)】

<学校と地域との連携の必要性> ～小諸市民と小諸新校の一体感を目指して～

- 今の教育に特に必要なこと: 認知能力(学力等) + 非認知能力(コミュニケーション力等) → **生きる力**
- ☞非認知能力を育むために学校の中だけでなく外に出て、いろいろな場で、いろいろな人と関わる事が大切
- ☞一人ひとりの子どもに合った教育を実現するために、学校の力+地域住民の力が必要
- 市内 唯一の小諸新校=コンパクトシティ構想の一環(小諸の広告塔)
- **市民の意識共有と強い連携が大切**

《様々な連携の可能性》

1. 行政との連携=「小諸未来義塾」の発展、小諸図書館・ステラホールを活用、市議会との連携等
2. 民間との連携=就業体験の充実と民間人講師による授業の拡大
3. 小中学校・大学との連携=小中学校⇔小諸新校⇔大学間での連携強化 特に「音楽のまち」の充実
4. その他=地域資源の活用・小諸学・クラウドファンディングやふるさと納税の活用・小諸市地域連携協働室設置

<大切なこと 創造力と新たな発想で、子どもたちの‘ワクワク感’を見つけ、感性を育む、協働した取組

②【小泉俊博様(小諸市長)】

<小諸新校への期待>

- 多様な学びの実践→「人間味」「バランス感覚」、高校生+行政→小諸の課題に協働で取組む
- 小諸のどこでも、誰からでも学べる街中がキャンパス→「心豊かで自律した人が育つ街」
- 小諸版「ウェルネスシティ」:人口減少社会下でも「移住して子育てできる、選ばれる街」を目指す
- コロナ禍で見えたこと:人々の考え方、社会の仕組みの変化→都市と地方の役割分担の明確化、地方の優位性
- 小諸DNA:①地元住民と移住者が化学反応をおこし、街を発展させた(両校のルーツ、小諸義塾の先生方等)
- ②先駆的に新しいことに挑戦した(長野県初の図書館や動物園、6次産業の取組等)
- ☞サードプレイス(職場・家庭・学校以外の自分が癒される場所)の必要性を小諸は重視
- 《最近の小諸の新たな動き》 当たり前にある、自然や文化を大切に、あるものを活かしたまちづくりを目指して

- ・BTM(IT)、「軽井沢蒸留酒製造(ウィスキー)」、「ハーバー(無添加化粧品)」等の企業進出や新規出店が多い
- ・農業振興事業とMaaS(次世代型公共交通)の研究を事業化し、事業構想大学院大学と提携
- ・コンパクトシティ構想による施設の集約に加え、複合型中心拠点誘導施設が、10月グランドオープン予定

【意見交換】『小諸新校とまちづくり』

- MaaSは海外で試験的に導入されているが、若い世代と異なり高齢者世代の利用には困難もあると思う(生徒)。
- 小諸はスタートラインに立ったばかり。バスにタブレットを持ち込み顔認証する等、さまざまな方法を検証したい。
- ウェルネスとは健康や身体という面だけではなく、総合的に捉える概念だと認識。健康以外の狙いはあるのか(生徒)。
- 「あらゆる分野で健康・健全を目指したことは当たり前」と言っているところは無かったので「小諸版」とした。

- 西村先生の「家庭」と市長資料の「いのち輝くまち」から「安心できる学校」という概念はとても大事だと感じた。
- 「学校の外へ飛び出して学びたい」という必要感をいかに創り出していくか。授業にも関わってくるのだと感じた。
- 教科横断型の学習により様々な知識や技能が身につく、地域へ出た時や海外の人と接する時等、いろんな場面で生きる。
- 小諸市としても、地域に関わった応援をしていきたい。普・商・音のある特色ある学校は、地域や行政にとっても宝。
- 青年会議所では、地元の大人と子どもが触れ合うイベント開催を目指している。高校生との交流する機会を構築したい。
- 行政・企業・家庭の協力が必要。地域の様々なところで連携していく形の新校を考えていけたらいいと思う。
- ワクワクする方向が出てきた。今の高校生にはアイデアがあり企業が欲しがらる時代。地元企業が社会の中で勉強しながら協力できる機会を作りたい。こんな高校であれば、むしろ1校になることは良い。福祉科もあるといいと思った。

第6回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和3年(2021年)7月20日(火) 18時00分～19時30分		
場所	小諸高等学校 音楽ホール		
出席	懇話会構成員 24名		
欠席	懇話会構成員 1名	傍聴者	傍聴3名、報道2社
事務局	小諸商業高校	藤澤教頭(事務局長)、原教諭、中村教諭、浅沼教諭、中山教諭	
	小諸高校	細萱教頭(副事務局長)、木住野教諭、坂口教諭、井出教諭、甲田教諭	
	県教育委員会	上原主幹指導主事、高野担当係長、丸山担当係長、柳沢敬	
当日資料	第6回懇話会次第、第5回懇話会まとめ、両校生徒の「小諸新校の学びについて」プレゼン資料		
会議事項			
1 報告	(1) 第5回懇話会まとめ	(2) 第4回校地検討部会報告	
2 会議	(1) 「小諸新校の学びについて」プレゼン及び意見交換 ※連絡事項 次回予定(令和3年8月12日)		
「小諸新校の学びについて」両校生徒のプレゼンテーション及び意見交換			
【小諸商業・小諸高校生徒によるプレゼンテーション】 <小諸新校の学びについて> ～新校建設への望み～			
○第3回懇話会での両校生徒によるプレゼンテーションのまとめ			
<ul style="list-style-type: none"> 《小諸商業》学年を超えた交流がない問題点がある反面、デュアルシステムやスマイル小商店街などで活動が活発化 《小諸高校》多言語学科の提案等による多様性への対応の必要性和、駅から学校までの距離が遠いという問題提起 			
○両校の伝統ある部活動の更なる発展を目指して			
<ul style="list-style-type: none"> 空手部、レスリング部、吹奏楽部、陸上部、野球部、商業系部活動等、両校では特色のある部活動が盛ん 例>レスリング部=両校とも活発、全国的な成果。子ども向けレスリング教室等、地域全体での発展に期待 			
○連携した文化祭の取組(来年度から順次実施)			
<ul style="list-style-type: none"> 《小諸商業》地域連携の一層の充実、小諸高校音楽科とコラボレーション、小中学校との連携した活動に発展させる 《小諸高校》多言語講座等を通じ多様な地域交流を目指す。販売の基本を学び、小商のスマイル小商店街本番に繋げる 			
○音楽科の新企画 ～音楽科は小諸高校の華～ 感動の波を拓ける企画			
<ul style="list-style-type: none"> 企画①『長野県一周音楽ツアー』演奏(音楽科)、広報・経理(商業科)、宣伝や小中学生との触れあい企画(普通科) <li style="padding-left: 20px;">多言語のパンフレット作成等で、県内在住の外国人や観光客にもPR 企画②『訪問演奏会・合同練習』地域との演奏交流や、地元小中学生との合同練習によりレベルアップが期待できる 			
○授業についての提案			
<ul style="list-style-type: none"> 提案①『探究の充実』プチ職業体験や青空授業等により、小諸市内にある事業所や施設、自然環境を有効活用し、新校での有意義な学習活動の充実を期待 提案②『考えさせる授業』ディベートやプレゼンテーションを中心に実施し、授業内で出た問題を深掘りする授業 <li style="padding-left: 20px;">各自が興味ある分野ごとに、自らの進路実現に向けて主体的に取り組む授業時間を増やす 			
.....			
【意見交換】(『小諸新校とまちづくり』)			
○学科融合、地域連携を深める新校の方向性は非常に良い。小諸の良さをさらに引き出し、商業教育の東信の中核としての魅力(マーケティングや広告宣伝等、経営やビジネス的な学び)を活かし、普通科は単に進学を目指すのではなく、文理問わず地域に根差した探究的学びに期待。総合学科でなく普通科、商業科、音楽科が、それぞれ並立し進化した夢のある学校になると思う。地元小諸の元気、東信のビジネス界に人材を輩出する拠点校として期待している。			
○農業には六次産業の課題がある。どうやって掛け算にしていくかが成功へのカギ。音楽も商業も融合できると思う。			
○生徒の発表にもあったが、高校は授業主体で地域との連携もそこから生まれる。授業の中で課題を持った時、自分の進みたい方向とか将来の生き方につながっていく。やはり、授業力、教材を活用する力も大切にしていけたらいい。			
○地域と連携し地域の人たちも一緒にやってもらえるとよい。どんな場が必要かという観点でアプローチすると、生徒達の活動が地域のためになって、自分も一緒に作っている実感がもてる。そういうサイクルになればいい。			
○いろんな提案があったが、どんどん情報発信して、統合前からできることはやっていけたらいいと思った。			
○小中高校で、アクティブラーニング等の流れが生まれてきていると感じた。学びの継続性がさらに活かされたらいい。			
○学校が新しくなれば、中身が変わる訳ではない。今から動くことが大切。子ども達を外に出すということはリスクもあるが出さなければ経験できない。地域への幅を広げるには、継続的にコーディネーターとして携わる方が必要。			
○少子化が進む中で、地域と小中高校生の交流ができることは、子ども達の幸せに繋がる。プチ職業体験は大事。どういう会社でどういう業態、業種ということを経験するためのもので、短期間の形でもいいと思う。			
○生徒発表は素晴らしかった。これからの方向性を示したと思う。生きる力、21世紀型の学力を示してくれたと思う。			

第7回 小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和3年(2021年)9月17日(金) 18時00分～19時30分	
場所	オンライン会議(会場使用:小諸高校・小諸商業・小諸市役所・長野県庁)	
出欠・傍聴	懇話会構成員 出席=23名 欠席=2名 傍聴者(オンライン) 傍聴=3名 報道=2社	
事務局	小諸商業高校	藤澤教頭(事務局長)、原教諭、中村教諭、浅沼教諭、中山教諭
	小諸高校	細萱教頭(副事務局長)、木住野教諭、坂口教諭、井出教諭、甲田教諭
	県教育委員会	上原主幹指導主事、高野担当係長、丸山担当係長、柳沢敬
当日資料	第7回懇話会次第と資料、第6回懇話会まとめ、両校職員によるプレゼン資料(普通科・音楽科・商業科)	

会議事項

報告:第6回懇話会まとめ 会議:1.校地検討部会からの提案 2.両校職員「新校の学びのイメージ」発表→意見交換

会議内容及び意見交換要旨

1 校地検討部会からの提案【部会長(田中尚公副市長)より説明】

「両校生徒の熱心なプレゼン、先生方の研修報告、両校同窓会諸先輩方の生徒への思いや将来への希望が、私たちに伝わった。その熱き思いに応えようと、常に前向きな議論を進めた。関係の皆様方に感謝を申し上げ、以下提案する」

①校地検討部会のまとめ ②校地選定理由 ③小諸商業校地活用にあたっての要望【別紙参照】→《意見交換》

- 良くまっている。今後は資金集め、小諸高校の跡地活用がポイント。小諸市支援のもと皆で知恵を出し合うことが必要。
- 通学の利便性から妥当な方向だが、正門の道路狭く安全面に配慮必要。グラウンド等も含め校地・施設の充実を要望。
- あるものを活用し駅から近く、良い場所を選定と感じる。小諸高校跡地も皆で小諸らしい活用ができればいい。
- 新校は、地域ぐるみで子どもを育てることを目指す。市街地に近く、小中学校等との連携に期待。

(賛成意見多数、反対なし) → 座長による採決 → 賛成多数 → 懇話会から県教委への校地選定の提案として確定

2 両校職員による「小諸新校の学びのイメージ」プレゼンテーション → 意見交換

【基本理念】・多様な進路を志すもの同士が協働して学び、本物に触れ、実社会を学びのフィールドとし、新たな社会を創造する一員として活躍する有為な人材を育む

【教育方針】・探究的な学びをとおして「課題発見力」「探究力」を伸ばし、地域の発展に貢献できる人材を育む

- ・グローバルな視点・感覚を涵養、コミュニケーション能力や多様な観点から考察する能力を育む
- ・主体的な学びを通し、自らの可能性と未来を切り拓く力に気づき、大きな夢に挑戦する人材を育む

《①地域連携、探究的な学び ②コミュニケーション、クリティカル・シンキング、多様性 ③主体性、キャリア教育》

【普通科】○何にでも、なりたい自分になれる可能性 → 多様な学びを保証し生徒の無限の可能性を引き出す

○基礎学力を身に付ける学習 + 地域課題探究型の学習

- ① → 市議会から地域課題を発見 → 自分たちのできる活動を生徒が模索 → 社会の一員として成長
- ② → 幼小中学生等、異年齢との多様な交流(連携)、実践的な外国語教育
- ③ → ジョブインタビュー(「本物」に触れる訪問インタビュー) → 3科融合のデュアル学習に発展
「新しい」「ワクワクする」「小諸ならではの」学びの実現を目指し → 『地域連携コンソーシアム』構築

【音楽科】○世界で活躍する人材を育むために、これからの「音楽専門家」として身につけたい4点

①音楽の専門知識・技術 ②エンターテインメント性 ③プロデュース力 ④一般常識・マナー

- ① → 出張演奏(3科で連携した長野県一周音楽ツアー等)、市立図書館音楽ライブラリー運営
小中高連携(楽器講座・コンクール審査)、ケーブルテレビ番組制作、ミュージックカフェ経営
- ② → ウィーン研修、ウィーン連携校とのオンライン交流、公開レッスン、音楽大学との連携(単位認定)
- ③ → 定期演奏会・校内演奏会・ミュージカル等、企画・運営・出演 → ブログ・動画制作

【商業科】○教科横断型の学習 [多様な生徒の共同研究=継続的に、複数教科のチームティーチングで支援]

- ① → 地元企業との商品開発、学校間連携、3科の生徒が融合したデュアル学習の展開
- ② → ビジネス探究プログラム、3科の生徒が共同して研究
- ③ → 地域と連携した学習活動 → 職業観の育成 → 主体的な進路実現

- 小諸商業にある定時制課程はこれからどうなるのか → 懇話会その他、様々なところで検討されると承知(座長)
- 多様なあふれる学校がつくられるイメージのプレゼン。主役の子どもたちが輝ける学校構築となることを期待。
- 新たな授業や単位制など、新しい視点で考えるきっかけになった。全ての人たちにフェアな学校となることを期待。
- 新校は普通科、特色学科、専門科、他校にはない連携に大きな期待。小諸市の協力を得ながら進めてもらいたい。
- よくまとまっているが、実際にこの内容を実行するとなると先生方は相当大変。自分たちの変革も必要になると感じた。
- シンボリック思考や譲れないものが学校の柱。生徒や先生に夢もあるが、大学入試があるのも現実。両立が大事。
- グローバルとは英語教育にとどまらない。新校は音楽の力の発信や東信の商業教育拠点を生かす方向がよい。かなり理想が高いと感じたが、先生方や地域の方々と一緒に歩んで行ったら凄い学校ができるのではと期待が持てる。

次回:令和3年11月2日(火)小諸市庁舎 内容:統合に向けての諸課題(佐久地域の中学卒業生数予測資料は今回提示)

第8回 小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和3年(2021年)11月2日(火) 18時00分～19時30分	
場所	小諸高校 音楽ホール	
出欠	懇話会構成員 出席=23名 欠席=2名	
傍聴報道	傍聴者(含オンライン)5名 報道2社	
事務局	小諸商業高校	藤澤教頭(事務局長)、原教諭、中村教諭、浅沼教諭、中山教諭
	小諸高校	細萱教頭(副事務局長)、木住野教諭、坂口教諭、井出教諭、甲田教諭
	県教育委員会	上原主幹指導主事、高野担当係長、柳沢敬主任指導主事
当日資料	第8回懇話会次第と資料、第7回懇話会まとめ(含:校地選定の提案内容、コンソーシアムのイメージ)	
会議事項		
報告:第7回懇話会のまとめ 会議事項:1.学びのイメージ(全体像) 2.新校開校に向けた諸課題(含:意見交換)		
会議内容及び意見交換要旨		
<p>1.「小諸新校の学びのイメージ」について(資料参照)</p> <p>◆ 小諸新校の学びのイメージ(全体像)について ・両校プロジェクトチームによる説明</p> <p>【意見交換】</p> <p>○いい学校になると思う。「地域」を強調し過ぎず、進学する子が多い中で進路実現に向けた施策を具体的に盛り込んでも良いと感じた。⇒カリキュラム編成はこれから。多様な進路希望に対応できるカリキュラムを検討。</p> <p>○地域との繋がりを深める方向性と認識。小諸市や商工会議所、市内の小中学校等といかに関わるか、例えば、小中の校長会から情報収集し高校との連携のあり方を検討することも有意義。⇒地域連携を柱として小諸商業のデュアル学習では小諸市産業振興課も協力。今後可能性を上げ、学校から発信し、理解を深めながら進めたい。</p> <p>○どの学科も基礎学力の定着は重要テーマ。その位置づけを明確にするイメージも大切。⇒基礎学力の伸長をベースに探究的な学びを展開する方向。今の小諸高校での学びを深める取組を精査し、より良い学びを作りたい。</p> <p>○人とコミュニケーションをとることや人前での発表が苦手な生徒も少なくない。地域との連携を進める際には、そうした生徒への配慮や、根底となるコミュニケーション能力を上げるような探究的な取組に期待。</p> <p>.....</p> <p>2.「新校開校に向けた諸課題について」(資料参照)</p> <p>◆(1) 募集学級数と開校年度について ・資料説明:旧第6通学区中学校卒業生数と学級数の推移</p> <p>【意見交換】</p> <p>○中学校も生徒数の激減は深刻な問題。いろんな意味で子どもたちを活性化する諸活動や、新たな学びや思い切った取組を考えると、ある程度まとまった生徒数や学級数が必要だと思う。</p> <p>○新しい小諸の高校を選んで入学したいと思ってもらうことが大事。高校生のアウトプットやコミュニケーション能力、発信力等、高校で学んだ重要なことを発信することまで含めて構想すれば、新校への入学希望者は増える。今は「入りたい高校」より「入れる高校」の傾向。「この高校だから行きたい」となるためには発信が重要。小中学校の新しい教育課程では、学んだことをその先にどう生かし何を発信するのが大事。それを高校に繋げて発信していくことは、新校の構想にも関係していけることと認識。</p> <p>◆(2) 設置学科、設置課程について ・資料説明:定時制課程の状況</p> <p>【意見交換】</p> <p>○新校の計画では定時制課程も全日制課程と一緒に計画を進めることを期待。定時制の生徒は、様々な環境の中で学んでいる。「是非とも夜間で」という希望もあれば、「昼間の時間を選んで学びたい」という生徒もいる。</p> <p>○現在ある多部制・単位制高校に夜間部を設置することで、今後の定時制課程の選択が「夜間定時制」、「多部制・単位制の昼間部」、「多部制・単位制の夜間部」など、生徒の希望に合わせて選択できる形になることを期待。</p> <p>○商業科の学びを定時制でも学びたいという希望もある。定時制課程での商業の学びは継続してほしい。</p> <p>◆(3) 統合方法について ・資料説明:年次統合と一斉統合</p> <p>【意見交換】 ⇒事務局(県教委)</p> <p>○小諸商業の校舎等新しい施設の準備状況によって統合方法は影響されると思う。年次統合の場合、交流等を懸念。 ⇒設計・建設で数年間を要することが想定される。一斉統合は、音楽やHR等、必要な施設が整っていることが前提。</p> <p>○年次は、文化祭等の学校行事や音楽科の交流等を懸念、一斉は、入学した校舎で卒業したい生徒感情への配慮必要。</p> <p>○音楽科の活動や先生方の苦勞、生徒の皆さんの意欲が維持できる方向性を重視し、統合方法の検討を進めてほしい。</p> <p>○新校地に音楽科の施設が完成するタイミングが大事。生徒・教員の移動の問題がある。一斉の場合、2年前から学級数を減じた後に統合。学級数を減らしていかなければいけない課題がある。検討が必要。</p> <p>《座長によるまとめ》.....</p> <p>○新校の学びの全体像は固まってきたと認識。今後の意見交換で、より良い統合方法を検討していくことを確認。また、1年でも早い開校を目指す方向で意志統一を図り、皆さんの同意を頂いたとして本日の確認とする。</p>		

第9回 小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和3年(2021年)12月23日(木) 18時00分～19時30分	
場所	小諸市役所3階 第1・第2会議室	
出欠	懇話会構成員 出席=23名 欠席=2名	
傍聴 報道	傍聴者(含オンライン)3名 報道3社	
事務局	小諸商業高校	藤澤教頭(事務局長)、原教諭、中村教諭、浅沼教諭、中山教諭
	小諸高校	細萱教頭(副事務局長)、木住野教諭、坂口教諭、井出教諭、甲田教諭
	県教育委員会	上原主幹指導主事、高野担当係長、柳沢敬主任指導主事
当日資料	第9回懇話会次第と資料、第8回懇話会まとめ、統合に向けた諸課題についての関連資料	

会議事項

報告：第8回懇話会のまとめ 会議事項：統合に向けた諸課題についての意見交換及びこれまでの懇話会の集約

会議内容 及び 意見交換要旨

◆「小諸新校の学びのイメージ(全体像)」 【両校プロジェクトチームからの補足説明】

- ・『小諸新校構想 提案書』の教育方針を基に『本物に触れる』『地域連携』『学科・教科横断型学習』が新校の柱。
- ・カリキュラム編成の柱は、専門性を伸ばす学びの重視と小諸新校ならではの3科を融合した学びの展開。
- ・地域や実社会を学びの舞台とし、多様な生徒が本物に触れ、探究的・協働的に学ぶことで、それぞれの進路希望を実現し、将来の大きな夢に向かって自己実現できるような人を育む。
- ・商業科は「生き方」や「学ぶ意義」を追求するビジネス探究プログラムのブラッシュアップ、地域の各種団体や企業と連携した商品開発、デュアル学習等の更なる充実を図りながら、スムーズに3科が融合した新校の学びに繋げていく。
- ・普通科、音楽科の伝統を踏まえ、基礎学力定着と進路実現を学校の目指す姿の1つと捉え、新たな取組に挑戦する。
- ・学校の中だけではなく、自治体や大学等の協力も得ながら、地元小中学校等との連携も深め、地域のコンソーシアムを活かすことで、生徒の目指す学びを柔軟に支援できるシステムの構築を目指す。

【「小諸新校の学びのイメージ(全体像)」について、本懇話会としては提案内容を承認】

◆「新校開校に向けた諸課題について」懇話会からの提案内容(資料参照)

(1) 活用する校地校舎について

- ・校地検討部会からの提案を第7回懇話会で承認。「小諸商業高校の校地校舎を活用する」内容を再度確認。

(2) 設置学科、設置課程について

- ・全日制課程は、「普通科・商業科・音楽科の3科の設置」を確認。
- ・定時制課程は、生徒の希望によって夜間定時制や多部制・単位制から選択できる配置が望ましい点、定時制課程に商業の学びを残してほしい点、以上2点の意見を踏まえ「小諸新校に定時制課程の設置が考えられる」とすることを確認。

(3) 開校年度、募集学級数について

- ・概ね4年程度と想定される施設整備の期間や、可能な限り早期の開校を目指す強い要望等の観点を踏まえ、開校年度を「令和8年度以降のできるだけ早期」とする。また、生徒の一体的な活動等を目指し一斉統合に期待する意見が多いことを確認。

【意見交換の主な内容】

- ・統合の方法が決まっていなければ「令和7年度以降のできるだけ早期」という考え方もできるのでは。
- ・施設整備4年を想定すると令和8年が最短と思われる。統合方法に関わらず実質的に「令和8年度以降」の表現に賛成。
- ・地域のコンソーシアム構築を目指す新校の学びや、コスト面、跡地活用等の観点から、一斉統合が良いと思う。
- ・新校地に音楽科等の施設が完成するタイミングが大事。新校が駅の近くに来て小諸市や地域との連携を目指す。学級数を最初に縮小する必要があるなど様々なハードルはあるが一斉統合が望ましいと考える。
- ・活用する校地については「校地拡張を含めた必要な校地・校舎整備」という内容が、校地部会からの提案として懇話会で承認され、県教委に伝わっていると認識。
- ・第6通学区の少子化は厳しい状況。令和8年度に7学級でも危惧される部分はあるが、両校の学級数を1ずつ減らした形でいければいいかと思う。なぜ統合が必要かについては、前提に子どもの数が減ることもあるが、学校としての活力の維持が大事な観点。何とか一斉統合が図れればいいと期待をしている。
- ・中学生に向けても一斉統合の方がいいと思う。表記は「募集開始年度」より「開校年度」の方が分かりやすいと思う。
- ・いよいよ身近な子どもたちが新校に進学していく姿を想像すると、年次統合より一斉統合を求めたいと思う。

《座長によるまとめ》:「一斉統合が望ましい」意見も踏まえ、現時点でのまとめを別紙の通り確認する ➡承認

《事務局からの連絡》:本懇話会の現時点でのまとめをもとに再編実施基本計画を策定し、できるだけ早期に長野県教育委員会定例会に付議し、県議会に統合の同意を求める。同意後は、開校に向けた準備が加速する。次回の懇話会の開催については、改めてご連絡。

第 10 回 小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和4年(2022年)3月25日(金) 18時00分～19時00分(17:30～オンライン会議入室)		
方法	Zoomを用いたオンライン会議		
出席	懇話会構成員23名		
欠席	懇話会構成員1名	傍聴者	傍聴2名、報道2社
事務局	小諸商業高校	藤澤教頭(事務局長)、原教諭、中村教諭、浅沼教諭、中山教諭	
	小諸高校	細萱教頭(副事務局長)、木住野教諭、坂口教諭、井出教諭、甲田教諭	
	県教育委員会	上原主幹指導主事、高野担当係長、柳沢敬主任指導主事	
当日資料	<p>第10回懇話会次第、第9回懇話会まとめ、 小諸新校(仮称)再編実施基本計画(2月7日 教育委員会定例会資料)、 小諸新校 議会同意後のスケジュール(予定)について <参考資料> ○校地選定について ○新校の学校像、○長野県スクールデザイン2020(抜粋)</p>		
会議事項			
1 報告	(1) 第9回懇話会まとめ		
2 会議	(1) 再編実施基本計画について (2) 今後のスケジュールについて		
3 連絡事項	次回懇話会開催 令和4年5月16日(月) 小諸市役所第1・第2会議室		
意見交換			
【再編実施基本計画、今後のスケジュールについての意見交換】			
○学校像に示される新校が、いよいよ実現することを実感。楽しみにしている。			
○再編実施基本計画の内容に期待をしている。意見をまとめ具体的な方向に進めていただいたことに感謝。			
○動き出したと感じる。今後スムーズに進むことを期待。地域連携協働室は行政からも常駐してもらえるとよい。また、探究的な学びが一層進むことも期待。一点、業者が決まったように受け取ったが、その点はどうか。			
<p>➡地域連携協働室は地域と高校生のスムーズな接続を目指す。自治体、学校双方が常駐した形態を実現。 業者は決まっていない。シンポジウムは、目指す学びを実現する施設整備を一緒に考え、具体的な条件を整理して全国に発信することで、最適な業者選定に繋げることが目的。</p>			
○小諸新校には、周辺の市町村からも入学者が多いと予測。御代田町など近隣の自治体との連携にも期待。			
○地域連携協働室で小中学校の生徒会や地域と繋がることで、教育内容やカリキュラムが広がる。新校の柱となり、大きな役割を担っていく仕組みができれば良いと思う。			
○情報発信を重視したサテライトスタジオの構想は、子どもたちを地域から世界へ繋げ、世界からも地域からも高校を見ることができるとよい。とても新しい発想で、是非実現してほしい。			
○生徒のことを考えてもらっていると感じ、ありがたい。去年から参加しているが、日程等が具体的に示され、現実的になってきたことが嬉しい。			
○校名や教育内容等、いよいよ現実的な話となり楽しみになってきた。この先100年を見越した校名に期待。			
○学校像がわかりやすくなった。「共創」という言葉が嬉しい。施設整備も出席者や関係者、子どもたちが関わり現場を大事にする設計がされていくことを実感する。			
○地域連携室等を使い中学と高校の連携進展に期待。小中学生が新校に夢を持てるようにすることが大切。			

第 11 回 小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和4年(2022年)5月16日(月) 18時00分～19時30分 (小諸市役所3F会議室)		
方法	Zoomも用いたハイブリッド会議		
出席	懇話会構成員 21名		
欠席	懇話会構成員 2名	傍聴者	傍聴 9名、報道 1社
事務局	小諸商業高校	三宅教頭(事務局長)、原教諭、中村教諭、滝沢教諭、中山教諭	
	小諸高校	細萱教頭(副事務局長)、木住野教諭、坂口教諭、井出教諭、山浦教諭	
	県教育委員会	山岸主幹指導主事、柳沢勝主任指導主事	
当日資料	第11回懇話会次第、第10回懇話会まとめ、 長野県スクールデザイン2020の実現にむけて 第1期高校再編時の校名選考について 小諸新校校名検討について 小諸新校校名募集要項(素案)		
会議事項			
1会議	(1) 第10回懇話会まとめ (2) 施設設備に係る新校の学びの具体例について (3) 小諸新校の校名選考について		
2連絡事項	次回懇話会開催 令和4年8月18日(木) 小諸市役所第1・第2会議室		
意見交換			
【小諸新校における学びの具体例について】			
○夢のある学校教育を発想し、探究的な深い学びを経験させて力をつけてほしい			
○主体的、対話的な深い学びを通して「生徒自身がテーマに沿って、生徒自身が調べる」授業展開に期待し、学科・教科横断型授業を活用しているというが、どのように実施しているか知りたい			
➡「主体的・協同的に学ぶ意義を考える」ビジネス探究プログラムという授業を今年度より小諸商業高等学校で本格的にスタートし、計30時間を予定している。週1回の4限連続授業で設定し、教員は4名(商業科・普通科・芸術科)での教科横断型の授業展開としている。生徒は、自分の生き方を模索しながら、他者を理解し自己肯定感を高め、将来社会で貢献できる人材を育成するプログラムとなっている。			
○小諸新校の重要なコンセプトの1つに「小諸共学共創コンソーシアム」がある。地域連携協働室やサテライトスタジオ等、地域の方が高校の中に入っていける施設をぜひ実現してほしい。			
○駅前空き店舗を、高校生が活用することも考えられる。			
○小諸市以外の地域から入学する生徒もいるので、探究については小諸地域に固執するのではなく広い目で実施してほしい。			
【小諸新校の校名選考についての意見交換】			
○いつまでも「小諸新校(仮)」では、親しみも湧かないため、なるべく早期に決定してもらいたい。			
○校名や教育内容等、いよいよ現実的な話となり楽しみになってきた。この先100年を見越した校名に期待。			
○2年連続で定員が大きく割れてしまっている。原因を追究し、地域から信頼され中学生が行きたいと思える学校づくりをしていく必要がある。			
○地域連携室等を使い中学と高校の連携進展に期待。小中学生が新校に夢を持てるように情報発信することが大切。			
○選考の観点で「本物の学び」とあるが、具体的な中身が分かりづらい。骨子はいいいが、「本物の学び」ともう少しわくわく感がある表現に関しては検討してほしい。			

第 12 回 小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

日 時	令和 4 年 (2022 年) 8 月 18 日 (木) 18 時 00 分～19 時 00 分 (小諸市役所 3F 会議室)		
方 法	Zoom も用いたハイブリッド会議		
出 席	懇話会構成員 18 名		
欠 席	懇話会構成員 5 名	傍聴者	傍聴 4 名、報道 1 社
事務局	小諸商業高校	三宅教頭 (事務局長)、中村教諭、滝沢教諭、中山教諭	
	小諸高校	細萱教頭 (副事務局長)、木住野教諭、坂口教諭、井出教諭、山浦教諭	
	県教育委員会	堀田企画幹、中島主任指導主事、本山主任指導主事、塩川施設係主任 柳沢勝主任指導主事	
当日資料	第 12 回懇話会次第、第 11 回懇話会まとめ、 小諸新校ワーキンググループ業務内容 施設整備について 小諸新校校名募集要項 (案)		
会議事項			
1 会 議	(1) 第 11 回懇話会まとめ (2) 新校準備委員会より (3) 施設整備について (4) 小諸新校の校名選考について		
2 連絡事項	次回懇話会開催 令和 4 年 11 月から 12 月 小諸市役所第 1・第 2 会議室		
意見交換			
【新校準備委員会より】			
○懇話会はおよそ 3 か月に一度の開催であるため、構成員が意見を言う機会が限られている。懇話会が開催される前に、構成員が意見を言いたい場合も考えられるが、そうした場合はどのようにすればよいか。 →両校準備委員会と検討して回答する。			
【施設整備についての意見交換】			
○周辺道路やグラウンドのあり方等の周辺環境整備について、校地検討部会から要望しているものがある。地域の声や校地部会での意見を反映していただき、敷地内だけでなく周辺環境の整備等も改めて検討していただきたい。 →今までいただいたご意見については承知している。地域の方々や学校関係者の皆様のご意見を伺いながら施設整備を進めていく。			
○校地検討部会では、除却想定以外の施設や校地の拡張等についても意見が出ていた。県は除却想定施設と既存の校地内で施設整備を考えているのか。 →部室や合宿所等については、合理的かつ経済的な提案であれば除却想定として提案していただいて構わないと説明している。校地の拡張については、新校での学びを考えていく中で必要があれば検討していく。また、業者が決定した後、ワークショップという形で地域の方々の意見をお聞きする場面を設定し、意見交換しながら進めていく。			
【小諸新校の校名選考についての意見交換】			
○同じ校名で多数の応募があった場合どうするのか。また、判断基準も含めて、過去の事例の情報提供をお願いしたい。 →1 期再編時も、応募数や投票数が多かったものが校名に選ばれたわけではない。懇話会の構成員の皆様と意見交換しながら決定していきたいと考えている。			
○募集の告知についてはどのように考えているか。 →県はプレスリリースをする。その周知については、両校の準備委員会と検討する。			

第 13 回 小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和4年(2022年)11月21日(月) 18時00分～19時00分 (小諸市役所3F会議室)		
方法	Zoomも用いたハイブリッド会議		
出席	懇話会構成員 21名		
欠席	懇話会構成員 2名	傍聴者	傍聴 8名
事務局	小諸商業高校	三宅教頭(事務局長)、滝沢教諭、中山教諭	
	小諸高校	細萱教頭(副事務局長)、木住野教諭、坂口教諭、井出教諭、山浦教諭	
	県教育委員会	堀田企画幹、本山主任指導主事、石井主事、塩川施設係主査、柳沢勝主任指導主事	
当日資料	第13回懇話会次第、第12回懇話会まとめ、 施設整備について 小諸新校の校名選考について		
会議事項			
1会議	(1) 第12回懇話会まとめ (2) 施設整備について (3) 小諸新校の校名選考について		
2連絡事項	次回懇話会開催 令和5年2月上旬の予定 小諸市役所第1・第2会議室		
意見交換 →県教委 ◆事務局 →西澤奥山小坂森中共同企業体			
【施設整備についての意見交換】			
⇒プロポーザルの状況について報告し、最適候補者に選ばれた「西澤奥山小坂森中共同企業体」から自己紹介及び提案のポイントについて説明。二次審査会のプレゼンテーションの動画を視聴後に意見交換。			
○校舍建築時の防音対策はどのように考えているのか。			
→夏休み等の長期休業中に工事を計画している。防音と安全確保は大前提と考えているので、その計画を今後検討していく。			
【小諸新校の校名選考についての意見交換】			
◆211件、119の校名案候補の応募があったことを報告。このうち、県内に同名校がある等の理由により、10の候補を1次投票の対象外としたことについて説明。 ➡異議なし			
◆一次投票の結果、0票であった86の候補を二次投票の対象外とすることを提案。 ➡異議なし			
◆応募数と投票数が一番多かった「小諸義塾」を二次投票の対象とすることを提案。 ➡異議なし			
◆二番目に投票数の多かった「小諸」と「小諸総合」を二次投票の対象とすることを提案。			
○「総合高校」は、一般的に総合学科や総合選択制の学科の通称として使用されることが多いと理解しているが、通念上の整合性等は問題ないのか。			
◆二次投票の対象となった候補に対して調査をする。本日は「得票の多かったもの」という観点で残したい。 ➡異議なし			
◆「小諸梅花」と「小諸奏風」を二次投票の対象とすることを提案。 ➡異議なし			
◆今後の調査により、権利の問題等で採用できない候補が含まれている可能性も考えられる。については、決定した5案に2案程度を加えたい。 ➡異議なし			
◆(構成員から意見が出なかったため)「小諸結峰」と「嶺風小諸」を二次投票の対象に加えることを提案。 ➡異議なし			
◎懇話会として「小諸義塾」「小諸」「小諸総合」「小諸梅花」「小諸奏風」「小諸結峰」「嶺風小諸」の7案を二次投票の対象とすることを決定。			

第 14 回 小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和5年(2023年)2月24日(金) 18時00分～19時00分 (小諸市役所3F会議室)		
方法	Zoomも用いたハイブリッド会議		
出席	懇話会構成員 20名		
欠席	懇話会構成員 3名	傍聴者	傍聴 6名(報道1社)
事務局	小諸商業高校	三宅教頭(事務局長)、滝沢教諭、中村教諭、中山教諭	
	小諸高校	細萱教頭(副事務局長)、坂口教諭、井出教諭、山浦教諭	
	県教育委員会	堀田企画幹、高野課長補佐、有坂主任指導主事、柳沢勝主任指導主事	
当日資料	第14回懇話会次第、第13回懇話会まとめ、施設整備について小諸新校の校名選考について		
会議事項			
1 会議	(1) 第13回懇話会まとめ (2) 施設整備について (3) 小諸新校の校名選考について (4) 新校開校に向けた検討事項の進捗状況について		
2 連絡事項	次回懇話会開催 未定(令和5年4月下旬から5月下旬の予定) 小諸市役所第1・第2会議室		

意見交換 ⇒ 県教委 ◆ 事務局

【施設整備について】

⇒懇話会での意見交換を円滑に進めるため、懇話会に「NSD 会議」を設置することを提案。併せて、NSD 会議の構成員と部会長を提案⇒ 承認

⇒施設整備の今後のスケジュールについて説明

○第1回のワークショップに参加した。これから本格的に施設整備が始まるので、構成員の皆様にも積極的に参加していただきたい。

【小諸新校の校名選考について】

◆「小諸新校 校名募集要項」の修正案を提出 ⇒ 承認

⇒「校名候補の商標権調査及び有識者への相談結果」の説明

◆二次投票の結果及び事務局での検討結果を説明

①「小諸義塾」は、明治時代に、高等小学校を卒業後もなお向学の志に燃える青年たちのために地域住民や地元議会が資金を出し合って創立、運営された学校である。閉校後にその校地校舎が現在の小諸商業高校、小諸高校の原点である旧町立小諸商工学校に転用された歴史から、地元には「小諸義塾」へ寄せる強い思いがあり、地域から愛される学校、地域とともに育っていく学校にとの新たな校名への願いや期待を象徴する校名として相応しい。

② 小諸新校(仮称)は、「共学共創」の理念のもとに構築するコンソーシアムによる、小諸ならではの学びを柱としていることから、「小諸義塾」は、小諸商業高校と小諸高校の歴史や伝統を引き継ぎつつ、地域と連携した本物に触れる学びを通して未来を担う若者を育む学校像に相応しい校名である。

上記2点の理由から、「長野県小諸義塾高等学校」を小諸新校の校名候補としたい。

○「小諸義塾」は素晴らしい校名だと思うが、私立のイメージが強い。「小諸総合」の方が、地域の中学生にとって理解されやすいと考える。

○学校づくりは街づくりの一環。小諸市が取り組んでいるのは「温故知新」であり、これは「小諸義塾」に通ずると考える。

○「小諸義塾」で学んだ若者たちが小諸の街を作ってきた。新校で学ぶ若者たちが、その向学心やエネルギーを継承してほしいという願いで義塾を選んだ。

○懇話会として意思を明確にしておくことが必要である。「長野県小諸義塾高等学校」とすることに賛成の方は挙手を願う。

⇒ 挙手多数により、「長野県小諸義塾高等学校」を懇話会として校名候補とする。

⇒校名選考に係る今後の流れを確認

○令和7年県議会11月定例会で正式決定とのことだが、これを早めることは可能か。

⇒条例改正等が関係するので、庁内で検討させていただく。

【新校開校に向けた検討事項の進捗状況について】

◆ワーキンググループでの検討状況を報告

WG-A 校名について検討してきたが、今後は校歌や学校目標の検討を始める

WG-B 内規の検討中

WG-C 単位制における新たな学びの可能性について検討中

WG-D NSDプロジェクトにより、設計業者と施設整備の検討中

WG-E 生徒・保護者に対してアンケート調査を実施して制服について検討中

第 15 回 小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和5年（2023年）5月30日（火） 18時00分～19時50分		
会場	小諸市庁舎 第1・第2会議室		
出席	懇話会構成員 19名		
欠席	懇話会構成員 4名	傍聴者	傍聴 6名（報道1社）
事務局	小諸商業高校	辻教頭（事務局長）、大槻教諭、植原教諭、郷津教諭	
	小諸高校	細萱教頭（副事務局長）、大澤教諭、井出教諭、坂口教諭	
	県教育委員会	柳澤主幹指導主事、金井主任	
当日資料	○次第、開催要項、構成員名簿、開校までのスケジュール、校名変更について、WG進捗状況 ○NSDプロジェクト進捗状況（NOKS作成） ○地域連携について（小諸市企画課作成）		
会議事項			
(1) 第14回懇話会まとめ、(2) 開校までのスケジュールについて、(3) 開校に向けた検討事項の進捗状況について、 (4) 新校との地域連携協働について			
意見交換			
【新校との地域連携協働について】			
◆コーディネーター、地域連携協働室について			
<ul style="list-style-type: none"> ○商工会議所、商店会、連合会、町会等、いろいろな団体に声を掛けられるコーディネーターが必要。市か県がお金をつけないといけないと思うが、コーディネーターがいなくて地域との連携は難しいのでは。 ○コーディネーターが置かれることで学校側の負担も軽減される。それにより、新たなアイデアや違った取り組みが生まれたりする。学校と連携できるシステムは必要。 ○コーディネーターの役割が、学校のニーズと地元を結びつける働きとしてとても重要。ただ、誰でもいいというものではない。また、どういう役割を担っていただくのかも丁寧に考えねばならない。 ○地域と協働しているいろいろな学びをしていく際、教員は、決してそういう仕事に慣れているわけではないので、ハブとなる地域連携協働室は必要。 			
◆地域と連携協働した取組について			
<ul style="list-style-type: none"> ○高校で商工会議所の会議を開くことが可能。学校に行って子どもたちと話して、それをまちづくりに活かすという形ができればよい。 ○学習塾は経営をしていかなければダメだと思うので、どこまで協力してくれるか気になるところ。 ○生徒と教職員の負担のかからない状況の中で継続的な取組をしていきたい。例えば、地域の方々とのスポーツ交流、生徒を講師とするパソコン教室や音楽レッスンを授業の一環として行い、単位認定する等。 ○仕組みづくり、仕掛けづくりは学校主体でやるしかない。例えば、授業の一環として、小諸の歴史やまちづくりを地域と生徒と一緒に学び、生徒には単位を認定し、地域の方には表彰状を進呈する等。 ○小高連携では、小学生からすると高校生のお兄さん、お姉さんに「教えてもらう」みたいな部分が強くなってしまふ。一緒に考える、協働して行う等、子どもたちの学びにつながるとうい。 			
<「本物に触れる学び」について>			
<ul style="list-style-type: none"> ○e-Sportsの専門的な方の話が聞けるのは面白い。 ○多様なことを学べ、自分から将来の夢の選択肢を探しに行けるというのは、今までの学校にはない強み。 ○人生をどう歩むのかを、こういう学びから受け止めてもらいたい。 			
◆その他			
<ul style="list-style-type: none"> ○小諸市の意気込みを感じる。これだけ強い応援団がいることを両校の先生方は肝に銘じてやって欲しい。 ○小諸市の前向きな取組は、県下のモデルになっていく。協力していきたい。 ○「令和8年から」ということでご提案いただいたが、令和8年からしっかりとやっていくために、令和6年から（一つでも構わないので）この取組を入れていきたい。 			

第 16 回 小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

日 時	令和 5 年（2023 年）9 月 4 日（月）18 時 05 分～19 時 40 分		
会 場	小諸市庁舎 第 1・第 2 会議室		
出 席	懇話会構成員 20 名（うち 1 名はオンライン参加）		
欠 席	懇話会構成員 4 名	傍聴者	傍聴 6 名（報道 3 社）
事務局	小諸商業高校	辻教頭（事務局長）、大槻教諭、植原教諭、郷津教諭	
	小諸高校	細萱教頭（副事務局長）、大澤教諭、井出教諭、坂口教諭	
	県教育委員会	柳澤主幹指導主事、池田担当係長、原主任指導主事	
当日資料	○次第、開催要項、構成員名簿、第 15 回懇話会まとめ、施設整備基本計画、ワーキンググループ進捗状況、地域説明会		

会議事項

(1) 第 15 回懇話会まとめ、(2) 施設整備基本計画について、(3) 開校に向けた検討事項の進捗状況について（ワーキンググループ進捗状況、単位制・2 学期制、ブレ企画、服装）(4) 地域説明会について

意見交換（要旨）

【ブレ企画について】

◆学び（3 科の生徒が一緒になって考える探究学習）

○今から着手するのか。（できたら面白いが）

→探究学習の形が両校で違うため、すぐにすり合わせるのには難しいが、両校の 1 年生が小諸市のフィールドワークに取り組んでいるので情報交換はできる。今、できるところから考えていきたい。

○アイデアや方向性はよいと思うが、そのコーディネーター等、実際にどう進めるかが大変だという印象。

→今までになかった授業をする場合、先生方の授業をプロデュース、マネジメントする立場の先生が必要。その仕組みづくりも、ワーキンググループをとおして検討していきたい。

○（資料 8 頁 A の③に）「売上への影響を考える」とあるが、企業側から見ると、（売り上げが落ちると）死活問題となる会社もある。こうしたことをする場合は、後のフォローも考えた上で、経済界の人間も含めて考えていただくと助かる。

○先生から与えられた課題を解決していくのか、生徒が見つけた課題を解決していくのか。

→教員からテーマを与えるのも一つの方法だが、3 年生になったら、自分たちで課題を発見し、自分たちで解決していく形になるよう、プログラムを作っていきたい。

◆地域連携

○（軽井沢高校視察報告を受けて）軽井沢町は、かなり行政が踏み込んでいると思う。その全てを小諸市で対応できるとは思っていないが、行政面でも、生徒さんの背中を押せるような、よりよい体制づくりに取り組みたい。

○小諸市が取り組んでいる「まちタネ広場」を使ったイベントを早い段階から活用し、高校生が参加していくのは見えやすく、わかりやすい。

○コーディネーターの存在が何より大事。学校の先生以外に小諸市にもご尽力いただき、先生と連携しながら、進めていくのがよいと思われる。

◆行事

○商業科で学習したことを実践する場であるスマイル小商店街や小高連携を継続して欲しい。

○総合大学の各学部の教授に講義をしてもらい、いろいろ学ぶなかで、生徒が何を学びたいか考える時間をとってはどうか。

【服装について】

○服には相当お金がかかる。部活の服や私服に加え、入学式にふさわしい服装も必要。新校では統一したものがよいのでは。

○入学式とか卒業式には、統一した服装の方がよい。標準服の考え方でいけばよいのでは。

第 17 回 小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和 5 年（2023 年）11 月 29 日（水）18 時 00 分～19 時 40 分		
会場	小諸市庁舎 第 1・第 2 会議室		
出席	懇話会構成員 21 名		
欠席	懇話会構成員 3 名	傍聴者	傍聴 6 名（報道 1 社）
事務局	小諸商業高校	辻教頭（事務局長）、大槻教諭、植原教諭、郷津教諭	
	小諸高校	細萱教頭（副事務局長）、大澤教諭、坂口教諭	
	県教育委員会	柳澤主幹指導主事、原主任指導主事	
当日資料	○次第、開催要項、構成員名簿、第 16 回懇話会まとめ、地域説明会記録、周知広報活動、ワーキンググループ進捗状況、学校視察報告、「新しい普通科」について		

会議事項

(1) 第 16 回懇話会まとめ、(2) 地域説明会の実施状況について、(3) 開校に向けた検討事項の進捗状況について（ワーキンググループ進捗状況、学校視察）(4) 「新しい普通科」について

出された意見（要旨）

【地域説明会の実施状況について】

- 3科融合の新しい学びとは何か。中学生が理解できるような説明をしてもらえるとありがたい。
- 中学生がこの高校に行きたいと思うようなわかりやすい説明をしてもらいたい。
- 地域説明会は、これから進学しようと思っている中学生・保護者のためのもの。まだ煮詰まっておらず、致し方ない点もあるが、中学生と保護者の方がイメージできるような工夫が欲しい。（小諸義塾高校は、現在の小諸商業高校、小諸高校とどこが違うのか。野沢北高校、佐久長聖高校とどこが違うのか。）
- 認知能力と非認知能力がある。偏差値は認知能力、数字でわかるもの。コミュニケーション能力、リーダーシップ、決断力など数字で表せないものが非認知能力。その非認知能力を、小諸義塾高校では、「探究」という大きな柱で養うことができる。その辺りをもう少しプッシュしたらどうか。
- 保護者から、この学校は「進学校」なのか、「就職の学校」なのかという声を聞く。進学者が多い学校が「進学校」であると思うが、地域との協働で子どもたちを育てていくことと「進学校」が矛盾しないように。
- 新校は「地域」があまりにも出ていて、大学進学を考えた場合、「小諸義塾は選べないかな」という受け止め方も自分の周りの方にはある。保護者は、「出口」を考えている。「勉強したい」「学びたい」「いい大学に入りたい」という意識は、一般的にはまだまだ強い。誤解されないように、丁寧に作り込むことが大事。

【開校に向けた検討事項の進捗状況について（ワーキンググループ進捗状況、学校視察）】

- 例えば、(50分授業を)45分授業にすると授業時間が5分短くなる。それによって生み出された時間を各教科の習熟の時間に充てる。通常の45分授業では、対話を軸にした探究型、問題解決学習を行うという考え方もある。
- 今、50分授業だが、小諸義塾高校は45分授業。生徒側から見ると5分しか変わらないなら、5分減らして7時間授業や問題解決の時間に充てるなどすると思う。
- すでに小諸商業高校、小諸高校では、地域でのフィールドワークを重ね、大きく力をつけていただいている。探究での学びはとても大事だと感じている。コーディネーターについては、行政や経済界の皆さんとしっかりとした支援体制づくりに取り組みたい。

【「新しい普通科」について】

- 長野高校は、SGH（スーパーグローバルハイスクール）の指定が終わった後、文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」の指定を受けた（校内での呼称は「NGP（長野グローバルプロジェクト）」）。これは「地域」が一番のキーワード。地域の様々な団体（青年会議所や八十二銀行、市役所、県庁等）とコンソーシアムを組んで探究を進めていく。そのためには学校だけでは難しく、地域とのコーディネーターにいてほしいと思っていたが、そうはいかなかった。入ってもらえるのは非常にいいことだと思う。
- 「地域」という言葉の中には、大学とか他の機関という意味合いも入っていると考える。そういった所とも連携するためには、いろんな支援が必要という意味での地域連携だと考えているので、この方向性はいいと思う。こういったことが進学に結びつかないということは絶対ない。今の高校のトレンドだと感じている。

第 18 回 小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和6年(2024年)3月26日(火)午後6時から午後7時30分					
会場	小諸市庁舎 第1・第2会議室					
出欠席 (敬称略 ◎座長)	田中 尚公 甘利 庸子 坂口 健之	山下千鶴子 ◎高見澤敏光 原 周一郎	宮本 隆 鷹野 昭裕 井村 敏明	塩川 秀忠 臼田 明美	清水 信 伊藤 美保	西村 廣一 伊藤 樹里 以上15名
欠席 (敬称略)	新津伸太郎 相原 修 木住野修平	原 啓明 水澤 明夢	西田 祐恒 菊池 柚葉	深沼 浩 村瀬 光海 以上9名	傍聴者	傍聴10名(報道1社)
事務局	小諸商業高校4名 小諸高校 4名 県教育委員会3名	辻教頭(事務局長) 細萱教頭(副事務局長) 柳澤主幹指導主事	大槻教諭 大澤教諭 原主任指導主事	植原教諭 井出教諭 高橋主任指導主事	郷津教諭 坂口教諭	
会議事項	(1) 第17回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ (2) 大学入試制度について (3) 開校に向けた検討事項の進捗状況について(校内ワーキンググループ進捗状況) (4) 施設整備について					
当日資料	次第、開催要項、構成員名簿、第17回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ、大学入試制度について ワーキンググループ進捗状況、施設整備について(NOKS作成資料)					

主な内容(・意見、質問等 →事務局回答)

会議事項について

(1) 第17回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ
事務局(県教委)から説明し、意見及び質問はなし。

(2) 大学入試制度について

事務局(県教委)からの説明

特別選抜では「学校推薦型選抜」、「総合型選抜」等を受験する。近年、「総合型選抜」を導入する大学が増え、総合型選抜や学校推薦型選抜の際、面接などを通じて、高校時代に「探究」にどのように取り組んだのかを合否に係る評価の材料とする大学が多いようである。地域との協働を含め、探究に積極的に取り組むことが、進学にもつながり、また、大学での成長をもたらすものとする。

【意見】

- ・どの学校でも探究学習に取り組んでいる。小諸義塾高校が他の学校とどこが差別化されるのか、具体的に何を重点的にやるのかを示していかなければならない。
- ・探究活動については自分の進路や方向性をいかに形作るかが大切である。探究活動を通じた様々な活動での経験が、子供たちの意欲となって、醸成されていく。

(3) 開校に向けた検討事項の進捗状況について

ア 校内ワーキンググループ(WG)からの説明

WG A(学校運営検討)から

校章の決定方法については検討中である。

WG B(教務)から

11月に上田市、佐久市、小諸市で学校説明会を実施した。令和6年度中に令和7年度入学生に向けた説明会を実施し、さらに中学生・保護者・地域の方々に小諸義塾高校を知っていただける機会を設けていきたい。来年度は、より具体的な内容について情報提供できる見込みである。

日課については、今後変更の可能性はある。45分授業となり、火曜日・木曜日・金曜日に7時間目を実施する予定である。

WG C(進路・学習指導)から

令和8年度入学生の教育課程編成に向けて、3科の特色を生かし、探究的な学びをベースとした地域連携、学科・教科横断型学習をどのように展開するのか検討を進めていく。近年の両校の進路状況について、職員に情報共有することで、どのように進路保証をしていくのか考えていきたい。

指定校推薦などの情報交換及び指定校推薦先への統合に関する情報提供を行い、指定校推薦の継続を依頼する。

WG D (校舎・施設) から

令和6年度7月に取り壊しを予定している第2体育館周辺施設にある備品の保管場所が課題となっている。その他にもローリング計画による備品等の移動作業について、実施の方法を県教育委員会と調整中である。工事期間中の授業について特に体育施設が利用できないことへの対応が必要となっている。

WG E (生徒会) から

令和6年度からの合同練習の開始時期を各クラブに確認し、決定した。小諸商業高校工事中の練習場所の確保など課題を整理して対応している。

標準服については、取扱い業者が決定し、色は濃紺、ブレザータイプの上着にすることが決定した。両校生徒会役員と取扱い業者によるワークショップを行い、令和6年5月末までにデザインを決定する。

WG F (行事予定) から

現在、検討中のもので決定事項ではないが、スマイル小商店街は10月中下旬に実施、音楽科の定期演奏会は10月下旬に実施する方向で進めたい。修学旅行・研修旅行は11月中旬以降～12月上旬にかけて実施と考えている。

【質疑・応答】

- ・地域連携協働室のあり方を含め、地域連携や地域との協働について、現時点の考えはどうか。
→すでに地域と連携している活動に取り組んでいるが、学校の窓口となって、地域と連携できるような機能があればよいと考えている。
- ・他者と協働して、いろいろな課題を見つけて動いていく、チャレンジをしていく場でなければならない。人と人が自然に交流できるような仕組み、偶然出会ったところで、今まで考えもしなかった新しいクリエイティブな発想が生まれるように考えたい。

イ 地域連携コーディネーターについて事務局（県教委）からの説明

地域連携コーディネーターには、高校におけるコーディネーター機能、地域におけるコーディネーター機能、協働体制におけるコーディネーター機能がある。再編校として来年度は小諸商業高校に配置する予定である。

【意見】

- ・プロのコーディネーターは義務教育でも欲しい。サードプレイスで地域の方と交流できる場も小諸市小中学校再編にあたっては設置していきたい。また、高校との学校連携による交流もしていきたい。
- ・学校の現状、取り組みを、地域の皆様、町の皆様は何をしてもらいたいかということをもっと発信してもらいたい。
- ・3科が一緒になると特徴が薄まってしまうので、それぞれがもっと尖って、生徒や父兄が理解しやすいような優しい言葉で伝えていかなければ魅力が伝わらない。

(4) 施設整備について

NOKS説明

- ・南棟と北棟に新棟で繋ぐように設計し、地域の方も入りやすい施設、多目的施設がある。これまで南棟と北棟は一本の渡り廊下でしか繋がっていなかったものを、回遊性のある校舎配置にした。
- ・こもろピロティは屋根があるが、外と繋がっている最も活発な活動がされる場所となっている。天候に左右されずに活動ができるため、時間軸や、関わる人、活動内容が異なる生徒たちが偶然出会う場所となる。
- ・他、動画を見ながら新校の校舎内の説明

【意見】

- ・校地検討部会や校地を決定した際の懇話会での要望事項の要望項目、必要に応じた校地の拡張や周辺整備についての協議が始まっていない。新年度に、設計者、道路管理者、各用地の関係者で方向性を協議しあう会議を設けてほしい。
- ・それぞれの課題を解決するための機会をぜひ県教育委員会事務局の方に設けていただきたい。
- ・新校は回遊性のある良い学校であり、偶然出会う場所がたくさんある。探究を中心に進んでいこうとしている新しいイメージにピッタリのいい設計だと思う。

第 19 回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和6年(2024年)7月23日(火)午後6時から午後7時30分					
会場	小諸市庁舎 第1・第2会議室					
出欠席 (敬称略 ◎座長)	田中 尚公	山下千鶴子	宮本 隆	塩川 秀忠	鷹野 裕一	清水 信
	西村 廣一	原 啓明	◎高見澤敏光	上原 治代	黒田 説榮	塩川 侑佳
	渡辺 玲子	伊藤 樹里	菊池 柚葉	村瀬 光海	坂口 健之	大槻 高範
	柳澤 弘蔵	新井 雅人				以上20名
欠席 (敬称略)	甘利 庸子	鷹野 昭裕	相原 修	水澤 明夢	傍聴者	傍聴8名(報道1社)
				以上4名		
事務局	小諸商業高校	4名	辻教頭(事務局長)	古見教諭	植原教諭	郷津教諭
	小諸高校	4名	細萱教頭(副事務局長)	加藤教諭	山浦教諭	中村教諭
	県教育委員会	3名	原(多)主幹指導主事	原(周)主任指導主事		内山主任指導主事
	高校教育課施設係	2名	塩川主査	千野主事		
会議事項	(1) 第18回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ (2) 開校に向けた検討事項の進捗状況について(ワーキンググループ進捗状況) (3) 施設整備に係る建設及び解体工事のスケジュール					
当日資料	次第、開催要項、構成員名簿、第18回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ 小諸義塾高等学校(仮称)ワーキンググループ進捗状況 小諸義塾高等学校(仮称)教育課程表(図) 普通科 商業科 音楽科 小諸新校施設整備工程計画					
主な内容(・意見、質問等 →事務局回答)						
会議事項について (1) 第18回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ 事務局から説明 【質問】 ・前回の懇話会でNOKS(設計者)が説明に使用した資料は、中学生や保護者に見せることができれば、よいPRになるのではないかと。 → NOKS(設計者)に確認して、出せる範囲で中学生や保護者にも見てもらえるようにしていきたい。 (2) 開校に向けた検討事項の進捗状況について(ワーキンググループ進捗状況) WG A(学校運営検討)から ・校歌、校章については今年度末を目途に完成を予定している。 WG B(教務)から ・9月下旬に上田市、佐久市、小諸市で地域説明会を予定している。 ・探究を含めた教育課程、施設設備、日課、クラブ活動、標準服等について、中学生や一般の皆様に分かりやすい説明会にしていきたい。 ・広報活動については、新校のホームページの刷新、新たなリーフレットの作成など地域説明会だけでなく広く新校について広報できるように準備を進めている。 WG C(進路・学習指導)から ・令和8年度入学生教育課程は2年次から選択科目の幅を広げ、科の枠を超えて選択できるようになっており、3科融合の学びが実現できる仕組みとなっている。 ・「総合的な探究の時間」は、各科1年次に1単位、2年次は2単位、3年次は2単位設置される。ただし、商業科は1年次に、すでに実施されているビジネス探究プログラム2単位を含み3単位設置されている。 ・各学年の総合的な探究の時間は、3科同時展開する方向で検討を進めており、3科の生徒をミックスすることが可能な形での運用、授業展開を検討している。3科の生徒が1つの課題について、異なる視点や価値観から意見を出し合うことで、より深い学びが期待できる。 ・1学年から3学年までの総合的な探究の時間を同じ時間に実施することにより、学年を超えた交流ができるように検討している。 ・地域連携については、今年度、小諸商業高校、小諸高校の両校をモデル校として1名の地域連携コーディネーターが配置された。両校の情報発信や新校の情報発信、小諸商工会議所を窓口とした地域と学校の接続を担当している。小諸共学共創コンソーシアム作りに向けてどのようなことができるか模索しており、新校の地域連携協働室をどのように運営していくかを含めて検討を進めている。						

WG D (校舎・施設) から

- ・解体工事は2回に分けて第2体育館と器具庫、弓道場、卓球場を解体するスケジュールと業者が決定し、既存校舎の改修についても準備が進み、ローリング計画も決定した。

WG E (生徒会) から

- ・今年度の総合体育大会予選には4つの競技が合同チームとして出場した。工事期間中は両校で連携しての練習や市の施設利用などの対応が必要となる。
- ・標準服は濃紺のブレザー、ネクタイのデザインも決定した。ネクタイのデザインは両校の生徒・職員にアンケートを実施して決定し、ブレザーのボタンは生徒から図柄を募り、アンケートにより決定した。標準服ではスラックスやスカートは自由になっており、リボンもオプションとしての購入となっている。

WG F (行事予定) から

- ・年間行事計画を含めて検討を進めている。

○質疑応答、意見交換は「学び」と「標準服」の2点について行った。

ア 学びについて

【質疑・応答】

- ・連携コーディネーターが配置されて現在の状況と課題などはなにか。
 - ・小諸商工会議所と連携した活動に取り組み始めているが、コーディネーターの活動については段階を追って進めていきたい。
 - ・地域連携協働室を含めた学校全体のセキュリティが大きな課題である。地域の方が学校に入りやすい環境にするために先進事例などを含めて研究していきたい。

【意見】

- ・探究学習については単位数も多く、新校の新たな魅力となる。連携コーディネーターは、共学共創コンソーシアムを構築するための土台作りとなる役割を担っている。
- ・全校一斉の探究学習は学習形態がグループ単位か個人単位かによって違いが出るが、すべての教員が関わるということになるのか。
 - すべての教員が関わることになると思うが、実際の運用については検討している。

【提案】

- ・今後の商業科のあり方や求められる力を踏まえた学科名称に変更することを検討している。開校に向けて、今年度中にある一定の方向を出していきたい。

イ 標準服について

【意見】

- ・制服を作るにあたって、生徒や職員にアンケートをとり、生徒から図案を募ってデザインを決めたということは非常にいいことだ。誇りを持って、しっかり身に纏ってもらいたい。
- ・自分たちで決めたものは、愛着が湧いて大切にすると感じた。素敵な制服を見せていただいた。

(3) 施設整備に係る建設及び解体工事のスケジュール

- ・工事の内容は主に解体、既存校舎の改修、新築の三つに分けられる。
- ・解体工事は、先行して来月8月着工予定の第2体育館から始まり、対象の建物を段階的に解体していく計画となっている。主な解体工事はおよそ今年度中に完了する見込み。
- ・改修工事は今年度の10月から開始し、来年度の6月ごろに完了予定となっている。
- ・新築工事は今年の年末から年明けにかけて工事を開始し、新校舎で開校を迎えられる想定で計画している。
- ・体育館については現在の第2体育館を建て替えて、新校の全校生徒が一堂に会することのできる規模の体育館を建設する。

【意見】

- ・大体育館建設にあたり、諸活動に必要な校庭が十分に確保されるのか心配している。校地の拡張を含め考えていくべきではないか。
 - 具体的な場所のお話もいただいている。今の校庭で何ができるのかというところをまず考え、同窓会とも調整しながら進めていきたい。
- ・県は予算の確保ができたため、工事に入るという段階になっている。情報を共有しながら工事の進捗を適正に図り、安全な工事を進めていく上で、地元のご理解、ご協力をいただき、引き続き連携を図りながら進めていく必要がある。

【連絡】

- ・工事スケジュールなどを田町区民の皆様様に周知するための住民説明会を7月30日 火曜日 小諸商業高校会議室にて行う。すでに区民の皆様には回覧板にて開催のご案内をさせていただいた。

第 20 回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和7年（2025年）1月31日（金）午後6時から午後7時30分					
会場	小諸市庁舎 第1・第2会議室					
出欠席 （敬称略 ◎座長）	田中 尚公 ◎高見澤敏光 武井 瑚羽 大槻 高範	山下千鶴子 東城 芳春 矢澤 健吾 柳澤 弘蔵	塩川 秀忠 上原 治代 柳澤 蓮 新井 雅人	清水 信 塩川 侑佳 關 陽美美 以上21名	西村 廣一 渡辺 玲子 大池 花佳	原 啓明 栞原 勝海 坂口 健之
欠席 （敬称略）	宮本 隆 黒田 説榮	鷹野 裕一 相原 修	甘利 庸子 以上5名	傍聴者	傍聴6名（オンライン2名）	
事務局	小諸商業高校 小諸高校 県教育委員会 建設部施設課	4名 4名 3名 1名	辻教頭（事務局長） 細萱教頭（副事務局長） 原（多）主幹指導主事 佐藤課長補佐兼係長	古見教諭 加藤教諭 原（周）主任指導主事	植原教諭 山浦教諭	郷津教諭 中村教諭 齋藤主任指導主事
会議事項	(1) 第19回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ（案） (2) 地域説明会実施報告 (3) 開校に向けた検討事項の進捗状況報告 (4) 連携コーディネーター活動報告 (5) 学校×KDD I 共創プロジェクト2024 活動報告 (6) 施設整備の進捗状況について 報告					
当日資料	次第、開催要項、構成員名簿、第19回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ（案） 地域説明会資料（別冊） 開校に向けた検討事項の進捗状況報告 連携コーディネーター活動報告 学校×KDD I 共創プロジェクトについて 施設整備の進捗状況について					
主な内容（・意見、質問等 →事務局回答）						
会議事項について (1) 第19回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ ・事務局から説明し、意見及び質問なし。 (2) 地域説明会実施報告 ・中学生にわかりやすいようにポイントを絞った説明を行った。また、教育課程についてはイメージがしやすい ように、想定される生徒の例を挙げるなどの工夫をした。 ・来年度は学校を会場とした説明会を3～4回実施する方向で検討を進めている。 【質問】 ・本年度、地域説明会を実施し、昨年度との違いをどのように感じたか。 また、各会場参加者の内訳と人数はどのようであったか。 →前回の懇話会で、どのような人に対して説明会をするのか明確にというご意見をいただいたため、Q&Aを作成して公開するなど、中学生にわかりやすい説明会になるように心掛けた。 ・各会場参加者の内訳と人数について口頭にて回答 【意見】 ・両校の学校説明会でも新校に関する説明を行ったため、地域説明会の参加者が少なかったと感じた。参加者数だけを見ると物足りなさはあるが、小諸義塾高校への関心は高まっているのではないかと感じる。						
(3) 開校に向けた検討事項の進捗状況報告 ・事務局から各ワーキンググループの進捗状況について報告 【意見】 ・小諸義塾高校は、普通科、商業科、音楽科の3科が設置されていることが特色である。「3科融合の学び」について、もっとPRしてもよいのではないかと感じる。 ・生徒会の関係は、すでに両校の生徒が関わって活動を行っており、これから入学してくる中学生にとって希望に満たされたものになればと考える。						
(4) 連携コーディネーター活動報告 ・連携コーディネーターは、学校における教育や教育環境をより魅力あるものとするため、学校内の生徒、教職員、授業、						

部活動、学校行事等と行政機関、教育機関、メディアなどを繋ぎ、効果的な学習活動を支援している。

- ・両校及び新校の広報誌を作成し、日々の授業の様子や行事などを記事として取り扱っている。また、公式サイトブログなどでの情報発信も行っている。
- ・今年度は両校の探究学習を中心に、小諸市と連携した活動を支援し、フィールドワークを行った。
- ・今後は地域の方々の人材発掘など外へ出た活動ができるようにしていきたい。
- ・地域連携協働室を開設することにより、どのような空間を作り出すことができるのか楽しみである。地域の方々と生徒の交流事業を行うコミュニティスクールの開催やワークショップの開催、生徒主体のイベントの開催、校内居場所カフェや人材バンクの説明会など、生徒や地域の方々のニーズに合わせた地域連携協働室の運営を行うことを目標としている。

【意見】

- ・本当に素晴らしい活動をしていただいております、今年度はこれまで以上の活動をかなり実践できている。
- ・「地域と生徒の学びの充実」は、地域の方と学校が共に学び合うことであり、その場が地域連携協働室だと考える。
- ・小諸市小中学校と高校の課題は共通している部分が多く、同じ方向を向いていると感じた。小諸市のご支援をいただきながら、小中高の学校が、より地域と結びついて充実していくための場を構築する必要がある。
- ・今年度、両校の地域連携については、市役所各課がその活動に協力させていただいた。来年度以降もオーダーがあれば、様々な角度で連携して支えていきたい。
- ・探究をやるためには、基礎学力が必要であり、基礎学力があつてこそ探究が花開いていく。
- ・人口が減少していく中で、この地域を担っていく人材をどう育てていくのか、どんな大人になっていくかが大事である。小諸義塾高校の理念は、実践的な学びを通して、新しい価値の創造をする人間、新しい社会に対応していくビジネス人材を育てていくというものである。そのための地域連携協働室は連携コーディネーターだけでなく、周りからのサポートがないと充実していかないのではないかと。

(5) 学校×KDDI 共創プロジェクト2024 活動報告

- ・小諸新校の開校に向けて、どうしたら新入生を増やせるのかをテーマにプロジェクトを行った。佐久地域の少子化による定員割れ、ホームページで知りたい情報が見つけにくい等の意見が出たため、生徒目線で小諸新校の魅力を作り、公式SNSを立ち上げ、情報を発信していきたいと考えた。
- ・「探究フェスティバル」での発表を通して改善箇所が見つかり、質問をいただくことで新たな視点が生まれた。

(6) 施設整備の進捗状況について 報告

【意見】

- ・全体的に工事箇所、内容が複雑に入り乱れている中で、安全管理、授業に支障の出ないような騒音対策などは、万全の措置を講じていただいていると感じた。開校日が決まっております、工期的な調整も難しいが、受注業者が横の連携をとり、まずは安全第一という観点で工事を進めていただきたい。

◎座長まとめ

開校に向けて、学びの具体的な検討や、施設整備に係る工事も急ピッチで進んでいく。今後は、近隣の中学校や地域の広報活動にも力を入れていただき、小諸義塾高校が魅力のある新校であることをPRし、両校だけでなく多くの方々のお力をお借りしながら、開校に向けて進んでいきたい。

その他

- ・第21回再編実施計画懇話会については令和7年4月以降に実施予定。

第 21 回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和7年（2025年）4月24日（木）午後6時から午後7時30分					
会場	東信教育事務所 講堂					
出欠席 （敬称略 ◎座長）	田中 尚公 甘利 庸子 粟津原弘文 大池 花佳	山下千鶴子 ◎高見澤敏光 栂原 勝海 坂口 健之	宮本 隆 東城 芳春 武井 瑚羽 大槻 高範	塩川 秀忠 黒田 説榮 矢澤 健吾 柳澤 弘蔵	清水 信 嶋田 知英 竹内 太夢 新井 雅人	西村 廣一 甘利 哲夫 關 陽芙美 以上23名
欠席 （敬称略）	滝沢 裕之	塩川久美子	以上2名	傍聴者	傍聴4名（オンライン1名）	
事務局	小諸商業高校 4名	辻教頭（事務局長）	柳澤教諭	中澤教諭	郷津教諭	
	小諸高校 4名	有坂教頭（副事務局長）	甲田教諭	萩原教諭	中村教諭	
	県教育委員会 4名	百瀬参事 佐野室長	細萱主任指導主事	原（周）主任指導主事		
	建設部施設課 2名	佐藤企画幹兼施設第一係長	分部技師			
会議事項	(1) 第20回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ（案） (2) 施設整備のスケジュールについて					
当日資料	次第、開催要項、構成員名簿、第20回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ（案）、 小諸義塾高校（仮称）施設整備の進捗状況について					
主な内容（・説明内容）						
<p>会議事項について</p> <p>(1) 第20回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ（案）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局から説明し、意見及び質問なし。 <p>(2) 施設整備のスケジュールについて</p> <p>【工期延長について】 [建設部施設課より説明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新校建設工事の工期は令和8年3月10日までの予定であったが、工事を安全に進めるため、新棟及び音楽ホールのしゅん工まで約4カ月の工期延長が必要となった。 ・原因は、新棟の基礎部分に近接する既存擁壁（グラウンドと校舎の間の段差を作っているコンクリート壁）の地中部分を試掘した結果、既存擁壁と設計図の相違が判明したことにより、施工手順の大幅な見直しが必要となったため。 ・また、既存擁壁周辺の掘削作業を進める中で、地中に多くの転石（最大約1.2mの大きな石）が点在していることが判明し、破碎等の作業に日数を要することとなったため。 ・当初の作業工程は約3カ月で既存擁壁の下段（グラウンド側）の基礎工事と既存擁壁の上段（既存校舎棟側）の地盤改良工事を2カ所とも同時に着手し完了させる予定であった。 ・安全に工事を進めるための変更後の作業工程（設計での想定期間+約4カ月）は以下の通り。 <ol style="list-style-type: none"> ①既存擁壁の安全確保（土圧による滑動防止）のため、上段の土のすき取り作業を先行で完了させる。（検討含め+約1.5カ月） ②上段の地盤改良工事で使用する重機の荷重に耐えられるよう下段の新棟1階の壁立上りまでの作業を完了させる。（+約1.5カ月） ③上段の地盤改良工事の作業を完了させる。（+約1.0カ月） <p>【今後の対応について】 [高校再編推進室より説明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで学校説明会や地域説明会を通して説明してきた経緯、小諸義塾高校で学ぶことを楽しみにしている現在の1、2年生や入学を希望している中学生、これまでの準備の状況、地域や同窓会関係者等からの期待などを考え、令和8年4月開校は変更しない方針。 ・様々な観点から検討した結果、小諸義塾高校の校舎が完成するまでの間、普通科、音楽科は現小諸高校の校地、商業科は現小諸商業高校の校地で学校生活をそのまま送ることとしたい。 ・両校職員会議で、工期延長に至った経緯と、現時点で考える今後の対応についての説明を行い、両校の生徒及び保護者には文書で工期延長への対応についてお知らせをした。また、改めて説明の機会を設ける。 ・生徒の学校生活や学びを最大限保障できるよう、両校と連携しながら進めていく。 <p>【質問】 [→施設課回答 ⇒高校再編推進室回答]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・擁壁部分に関して、上段に重機等を乗せたとき荷重に耐えられないということが判明したということか。 						

→擁壁の寸法を図る作業は進めていたが、実際に重機で試掘調査を1月の中旬に行った。その段階で図面と現場の状況が異なることが判明した。

・掘削作業中に転石の存在が判明したということか。また、着工前に地盤の調査は当然行われるべきものだが、調査されていなかったということか。

→試掘調査は擁壁に対して調べていたため、実際にグラウンド側で既存擁壁の掘削工事を始めたら、その段階で地中から転石が出てきたという状況であった。事前に、地盤調査、ボーリング調査も行ったが転石を発見できなかった。

・施設課が立ち会い、工程管理を行う定例会議の場で、試掘調査の件は議題となっていなかったということか。

→施工者、設計者（工事監理者）、学校、施設課とで定例会議をこれまでも行ってきており、既存擁壁についての試掘調査についても議題として出された。

・まず安全第一で進めてもらいたい。その上で、工期延長は4カ月で守られるのか。

→不測の事態があるかもしれないが、作業工程の調整を含めて遅れることがないように進めていきたい。

・開校後、音楽科、普通科は小諸高校、商業科は小諸商業高校の校地で分かれて学ぶことに不安がある。

⇒開校して、当面の間、二つのキャンパスを使わざるを得ないことは本当に申し訳ない。生徒諸君の不安な気持ちは理解している。今後は、県教育委員会や、両校の先生方と一緒に、生徒諸君にもどんなことができるのか考えてもらいたい。

◎座長まとめ

・工法の見直しに関わる工期の延長については、仕方のないことだと感じているが、工期が4カ月延長となることにより、開校時に新棟や音楽ホールがしゅん工していないこと、普通科、音楽科と商業科の生徒が開校時に同じ校舎で学べないことは残念。

・令和8年の開校は変更せずに準備を進めていくため、両校と県教育委員会、建設部施設課で連携をとりながら、生徒の学びや学校生活の保障、生徒、保護者、地域への説明、工事への対応など、多岐にわたる課題について乗り切ってもらいたい。

・懇話会としても、開校し、地域に愛され、期待される学校となるように引き続き、応援をしていきたい。

(3) 連絡報告 [事務局より]

・「校章」と「校歌」については、5月上旬の決定を予定。5月下旬にお披露目をする方向で準備を進めている。

・今年度の学校説明会は、小諸商業高校にて6月下旬、8月下旬、10月上旬3回の開催を予定。

・ゴールデンウィーク期間中には、近隣の中学校向けにチラシを作成・配布する予定。

・体験入学は音楽科：6月14日（土）、普通科：7月28日（月）、商業科：7月31日（木）に実施予定。

・開校を翌年に控え、検討事項も多岐にわたることから、従来のワーキンググループを、より多くの教員が携われる体制に再編成を行っている。

・小諸義塾高校では商業科を「ビジネス科」という新たな名称で設置する方向で県教育委員会と検討を進めている。県内の商業高校、商業科を設置している学校に先駆けて、「ビジネス科」という名称を使うことになる。県内の商業教育、ビジネス教育を、リードしていけるような存在になればと考えている。

その他

・第22回再編実施計画懇話会については令和7年6月に実施予定。

第 22 回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和7年（2025年）6月16日（月）午後6時から午後7時30分					
会場	小諸市庁舎 3階 第1・第2会議室					
出欠席 （敬称略 ◎座長）	田中 尚公 甘利 庸子 武井 瑚羽 大槻 高範	山下千鶴子 滝沢 裕之 矢澤 健吾 柳澤 弘蔵	宮本 隆 ◎高見澤敏光 竹内 太夢 新井 雅人	塩川 秀忠 飯嶋さやか 關 陽美美 以上 21 名	清水 信 栗津原弘文 大池 花佳	西村 廣一 栞原 勝海 坂口 健之
欠席 （敬称略）	鷹野 裕一 嶋田 知英	東城 芳春 甘利 哲夫	塩川久美子 以上 5 名	傍聴者	傍聴 5 名（オンライン 1 名）	
事務局	小諸商業高校 3名 柳澤教諭 中澤教諭 郷津教諭 小諸高校 4名 有坂教頭（副事務局長） 甲田教諭 荻原教諭 中村教諭 高校再編推進室 5名 佐野室長 原（多）主幹指導主事 宮澤主事 細萱主任指導主事 原（周）主任指導主事 学びの改革支援課 1名 前山主幹指導主事					
会議事項	(1) 第 21 回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ（案） (2) 校歌・校章 お披露目 (3) ワーキンググループの進捗状況報告 (4) 今後の課題について					
当日資料	次第、開催要項、構成員名簿、第 21 回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ（案）、 校歌・校章、小諸義塾高校（仮称）開校に向けた検討事項の進捗状況報告					

主な内容（・説明内容 →事務局回答）

会議事項

(1) 第 21 回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ（案）

- ・事務局から説明し、意見及び質問なし。

(2) 校歌・校章 お披露目 [事務局]

- ・5月24日（土）小諸高校音楽ホールにて校歌・校章のお披露目会を実施し、校章のデザイナーである堺 奈央 氏、校歌の作詞・作曲者である横内 日菜子 氏に出席いただき、制作にあたっての思いなどを伝えていただいた。

【感想】

- ・校章とコミュニケーションマークは、制作者と生徒たちが一緒に試行錯誤しながら決めたデザイン。親しみやすいデザインとなったため、様々な場面でたくさん使ってもらいたい。
- ・校歌は、これまでの校歌と違った雰囲気、とても素敵だと感じた。
- ・小諸商業高校と小諸高校はそれぞれの歴史を積み重ねてきたが、統合によってその歩みが一旦区切られる。しかし、子どもたちが統合を前向きに捉え、発展の可能性を感じていることに感動した。
- ・梅花教育の思いが引き継がれており、校章やコミュニケーションを通じてその精神が継承されている。小中学校も含めて、梅花教育の理念をさらに深めて進めていく必要があると改めて感じた。

(3) ワーキンググループの進捗状況報告 [事務局]

○教務全般

- ・開校式・始業式・入学式：日程及び会場調整中。
- ・修学旅行：来年度は11月に3泊4日で沖縄に決定。
- ・履修・卒業認定：教科ごとに内規の読み合わせを実施し、修正案がほぼ完成。
- ・資格単位認定：教科ごとに検討中。
- ・校則・内規：生徒指導内規の最終案を両校で検討中。

○教育課程・進路関係

- ・教育課程：令和8年度分は決定済み。時間割作成に向けて調整中。
- ・フレキシブルラーニングタイム：主体的な学び（普通科）、課題研究（商業科）・音楽科授業
総合的な探究（金曜午後）、放課後の自由活動（部活・探究・検定学習など）

○探究・コンソーシアム

- ・県立高校特色化スタートアップ事業：コンソーシアムのアドバイザー委託や視察等も実施。
- ・視察予定：京都府（開建高校・堀川高校）6月19・20日、島根県（邑南町・江津市）6月23日

○施設利用

- ・備品選定：設計者と連携しながら検討中。
- ・改修・引越し：既存棟北校舎3・4階が使用可能となるため、7月7日・8月18日に引越し予定。

○生徒会

- ・生徒会組織：正式に決定。委員会の名称・業務内容を検討中。
- ・文化祭：名称をアンケートで決定予定。共同制作や、一般公開で両校が協力。

○入試

- ・令和8年度入試：小諸高校校舎で実施予定。
- ・音楽科全国募集：「地域みらい留学」に参画。専用ページを更新中。進学フェス6月21・22日に東京で開催。

○DX・ICT

- ・ホームページ更新：県から構築事業に関する予算が付与された。令和8年10月1日公開を目標に準備中。
- ・ICT活用：業務効率化や課題解決に向けて情報収集中。

【質問】

- ・「新校並びに創立120周年記念事業実行委員会」で集められた寄付によって、同窓会の後輩である新校の生徒に不自由がないように備品の整備を進めていきたい。
→ 備品の整備については同窓会と協力しながら進めていきたい。
- ・ホームページはスマートフォンからも見やすいページの作製をお願いしたい。
→ スマートフォンでも見られるように仕様書に盛り込んである。

(4) 今後の課題について [高校再編推進室]

- ・工期が4ヶ月延長されたが、令和8年4月の開校は変更なし。開校から校舎完成までの4ヶ月間、学習環境の保障を最優先に考え、普通科・音楽科は現小諸高校の校地を使用、商業科は現小諸商業高校の校地を使用する。
- ・各キャンパスに職員を常駐させ、生徒指導・進路指導を担う。一部の教員はキャンパス間を移動して授業を担当する可能性がある。
- ・学校行事やクラブ活動などで生徒のキャンパス間移動が必要になる場面を想定している。移動手段（バス等）については県教育委員会と小諸市で検討中。
- ・保護者の負担軽減にも配慮し、課題を整理して対応する。生徒・保護者・地域・中学生に向けて積極的に情報提供を行い、準備を進める。関係者の理解と協力を引き続きお願いしたい。

【意見】

- ・小諸義塾高校に関わる全ての人が、生徒の学びの保障を自分事として考えているかが重要。フロントランナーとして、このチャンスを存分に活かしてもらいたい。

◎座長まとめ

- ・校歌、校章、コミュニケーションマークが新校のシンボルとして末永く生徒や地域に愛されるように願っている。
- ・ワーキンググループの進捗状況では生徒の学校生活が垣間見える内容で、開校が本当に楽しみである。
- ・工期延長とそれに伴う対応は大きな課題である。両校と県教育委員会、そして建設部施設課に加え、財政部門と連携を密にとり、大きな希望と夢を膨らまして学ぼうとする新入生、現1年生、2年生の期待に応えられるように、教職員の配置等に万全を期していただきたい。

連絡報告 [高校再編推進室]

- ・6月12日の長野県教育委員会定例会にて商業科が「ビジネス科」の名称になることが決定。長野県で初めての名称となるため、商業科のイメージを超える学科名として広く周知していきたい。

その他

- ・第23回再編実施計画懇話会の開催については未定